

DNPグループ IR-Day 2025

DNP

未来のあたりまえをつくる。

2025年7月10日

大日本印刷株式会社

- (1)中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて
- (2)持続的成長へ向けた考え方
- (3)事業戦略

情報セキュア関連

代表取締役社長 北島 義斉

フォトイメージング関連

専務取締役 三宅 徹

モビリティ関連

常務執行役員 沼野 芳樹

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

常務執行役員 村上 和郎

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 宮崎 剛

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 松村 有純

常務執行役員 中西 稔

執行役員 富澤 伸行

(1)中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2)持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3)事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

ブランドステートメント

未来のあたりまえをつくる。

DNPグループは、サステナブルな社会の実現を目指し、企業理念に「人と社会をつなぎ、新しい価値を提供する。」ことを掲げています。この理念に基づき、持続可能なより良い社会とより心豊かな暮らしを実現するために、長期を見据えて、自らがより良い未来をつくり出すための事業活動を展開しています。

このような取り組みを通じて、持続的な事業価値・株主価値の創出を行い、

**DNPグループはROE10%を目標に掲げ、
PBR1.0倍超の早期実現を目指します。**

事業戦略

- 社会課題の解決とメガトレンドに通じる注力事業・新規事業への集中投資と事業構造改革を推進し、事業活動による更なる利益の創出を目指す。
- 事業環境の変化におけるリスクを、コア技術の進化・深耕によって成長機会に転換する。

財務戦略

- 成長投資の原資は、事業活動により生み出すキャッシュ・フローに加え、保有資産の縮減加速を含む資金効率の最大化により創出する。
- 資本効率の改善に向け、過去最大の自己株式取得を計画する。
- 持続的な企業活動のために、財務の安定性を維持しながら、EPS等を意識した株主還元の一層の強化を図る。

非財務戦略

- 人的資本ポリシーに基づき人への投資を拡大する。
- DNP独自の強みと外部連携を活かして知的資本を強化する。
- 「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」実現に貢献する。

中期経営計画の進捗状況

DNP

事業戦略

社会課題の解決とメガトレンドに通じる注力事業・新規事業への**集中投資と事業構造改革を推進**し
事業活動による更なる利益の創出を目指す

主要KPI

利益

営業利益 **1,300**億円以上

資本効率

ROE **10**%

成長投資

2023～27年度

3,900億円以上
(内、注力事業領域**2,600**億円以上)

成果と課題

- ✓ 2025年3月期実績：**営業利益936億円**
- ✓ 成長領域の着実な成長や構造改革が寄与
- ✓ 中期経営計画最終年度の目標を1年前倒し達成

- ✓ 2025年3月期実績：ROE9.6%
- ✓ **特別損益を除くROEは7%程度**と株主資本コスト相当まで向上（株主資本コストは6-8%と推計）

- ✓ 2か年累積実績：2,670億円(進捗率68%)
↳ 事業投資1,220億円、設備投資1,450億円
- ✓ **注力事業領域を中心に積極的な投資**を実施



(1)中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2)持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3)事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

中期経営計画の進捗状況

DNP

事業戦略

社会課題の解決とメガトレンドに通じる注力事業・新規事業への**集中投資と事業構造改革を推進**し
事業活動による更なる利益の創出を目指す

主要KPI

利益

営業利益 **1,300**億円以上

資本効率

ROE **10**%

成長投資

2023～27年度

3,900億円以上
(内、注力事業領域**2,600**億円以上)

成果と課題

- ✓ 2025年3月期実績：**営業利益936億円**
- ✓ 成長領域の着実な成長や構造改革が寄与
- ✓ 中期経営計画最終年度の目標を1年前倒し達成

- ✓ 2025年3月期実績：ROE9.6%
- ✓ **特別損益を除くROEは7%程度**と株主資本コスト相当まで向上（株主資本コストは6-8%と推計）

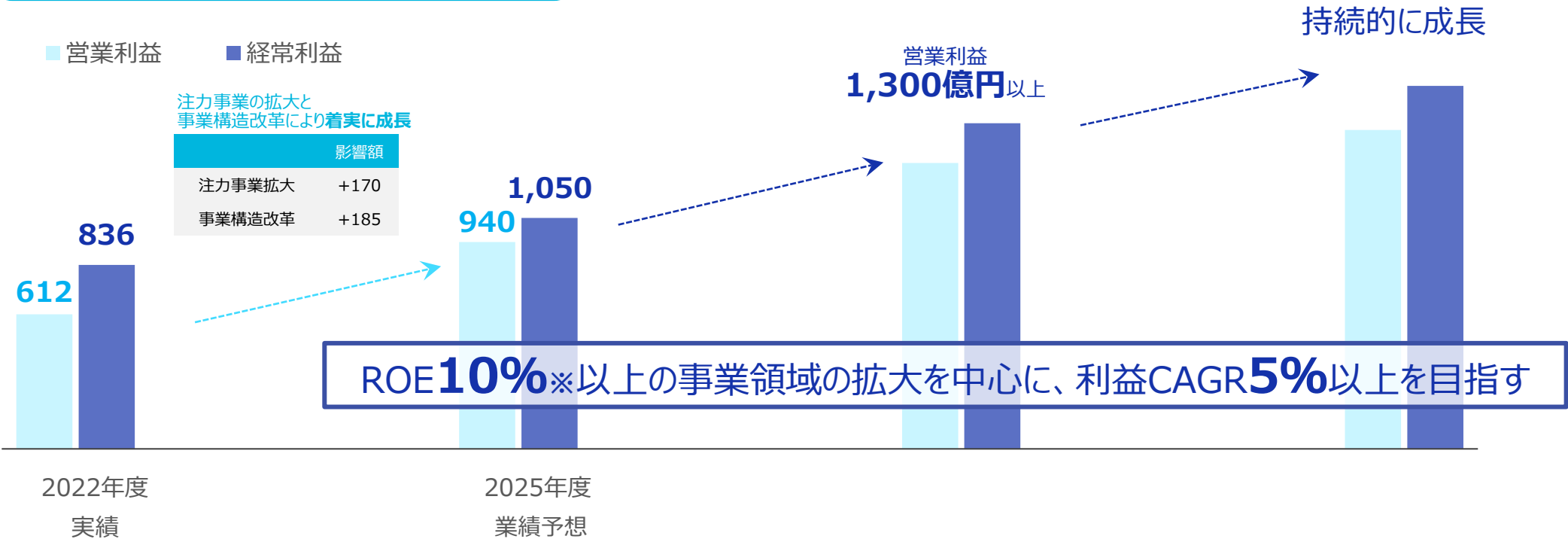
- ✓ 2か年累積実績：2,670億円(進捗率68%)
↳ 事業投資1,220億円、設備投資1,450億円
- ✓ **注力事業領域を中心に積極的な投資**を実施



2025年度以降の事業成長イメージ

資産効率が高い事業領域の拡大を中心に、持続的な成長を実現

現・中期経営計画

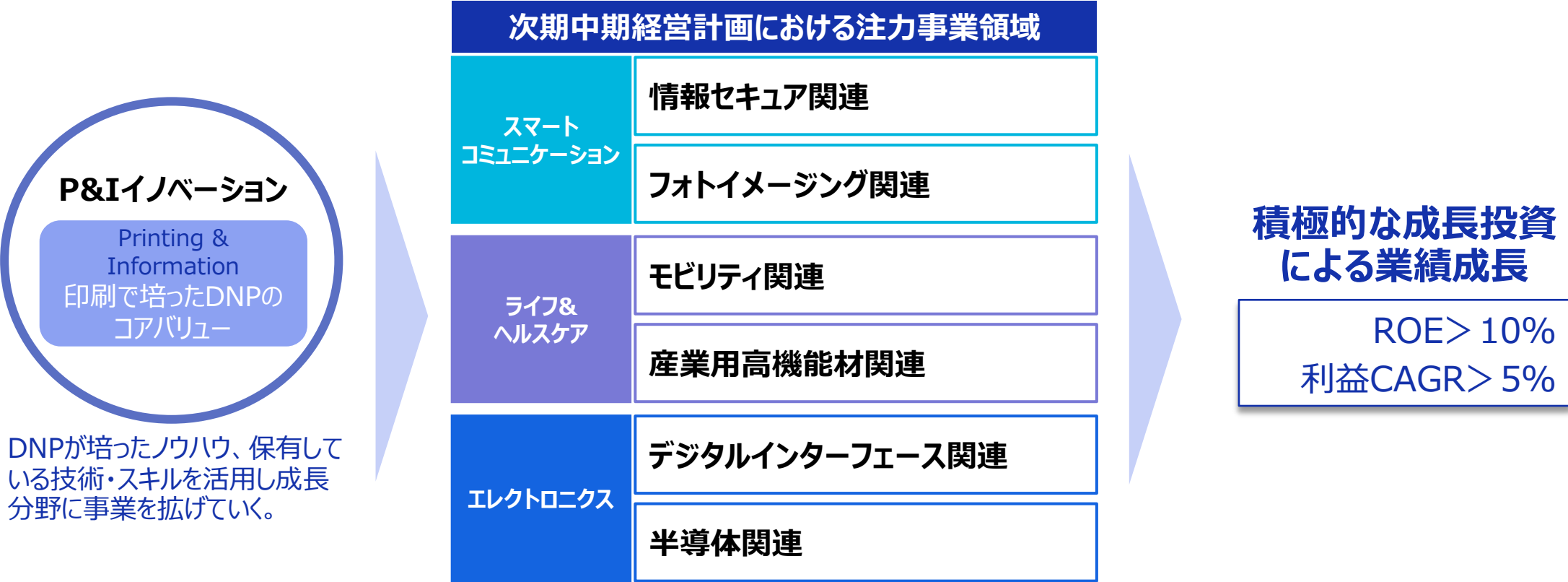


※各事業の純利益および純資産を疑似的に算定し事業別ROEを管理

次期中期経営計画における事業方針

DNP

印刷で培ったコアバリューであるP&Iイノベーションにより生み出された、高いシェア・良好な収益性・持続的な成長性を備える事業領域を新たな注力事業領域と位置づけ、ポートフォリオを構築



注力事業領域の詳細

単位：億円

DNP

高いシェアと良好な収益性を有し、持続的な成長が期待できる下記6事業領域で積極的な成長投資を実行し業績成長を牽引する

		市場シェア	収益性		成長性
事業領域		主力商材	24年度 売上高※2	ROE※3	市場環境 (CAGR '24-'29年)
追加	情報セキュア関連	 ICカード (国内シェアNo1)	1,770	<div><div></div></div>	約7% 情報セキュア市場
追加	フォトイメージング関連	 昇華型熱転写記録材 (世界シェアNo1)	740	<div><div></div></div>	約7% フォト関連市場
	モビリティ関連※1	 加飾フィルム、成形部品 (ハイエンドHMI市場でトップレベルのシェア)	710	<div><div></div></div>	約13% ハイエンドHMI市場
	産業用高機能材関連	 バッテリーパウチ (世界シェアNo1)	600	<div><div></div></div>	約15% 電動車市場
	デジタルインターフェース関連	 光学フィルム、メタルマスク (世界シェアNo1)	1,820	<div><div></div></div>	約5% デジタルインターフェース市場
	半導体関連	 半導体製造用フォトマスク (外販用フォトマスクでトップレベルのシェア)	660	<div><div></div></div>	約8% 半導体市場

※1 25年10月に生活空間関連と統合予定

※2 情報セキュア関連、フォトイメージング関連は2024年度開示数字から集計基準を変更

※3 各事業の純利益および純資産を疑似的に算出し事業別ROEを管理

▲
10%

注力事業領域への成長投資

単位：億円

DNP

成長投資・基盤構築投資

3,900億円以上（2023～27年度の5年間）

2023～24年度
累計実績

2025年度
計画

主なトピックス

2023～27年度
3,900億円

注力事業領域
及び
成長投資

2,600億円
以上

基盤構築投資
その他
1,300億円
以上

基盤投資
(設備更新等も含む)

2 年
計画進捗率
68%

2,670億円

事業投資
1,220

設備投資
1,450

事業投資

設備投資
800

2025年度

情報セキュア関連

- ✓ 政府向けID認証サービスを提供しているRubicon SEZC社を連結子会社化

2025年度～

半導体関連

- ✓ 半導体製造用フォトリソの生産能力を増強
- ✓ ガラスコアのパイロットライン（久喜工場）を2025年末に稼働開始予定

2025年度

デジタルインターフェース関連

- ✓ 新設中の光学フィルム新生産ライン(三原西)が今秋から量産開始予定

(1) 中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2) 持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3) 事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

情報セキュア関連

DNP

未来のあたりまえをつくる。

情報セキュア事業は、「あらゆるヒト・モノがつながる安全、安心で快適なスマート社会」にとって基盤となる事業

サイバー空間とフィジカル空間の両方で「ヒト」と「モノ」がつながるスマート社会において、「誰もが心地よく、無意識に、安全・安心な生活ができる社会の実現」をDNPは目指している。長年、**個人情報**を厳格に扱ってきた実績と、**国内シェアトップ**のICカードベンダーとして蓄積してきた技術力・運用力に加え、モノづくりと**サービスの掛け合わせで事業を進化**させてきたことが、顧客に選ばれ続けている原動力となっている。国内で培った情報セキュア事業のノウハウをもとに**グローバルでも事業展開**。特に人口ボーナスと経済発展が期待できる**新興国への投資に注力**。

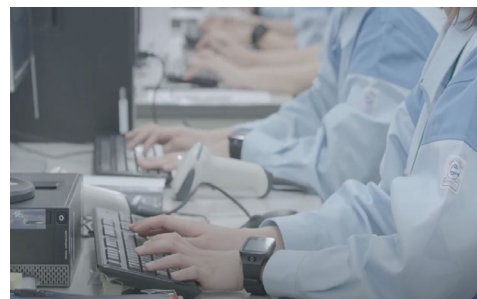
情報セキュア事業の主な製品・サービス



ICカード・デジタルキー

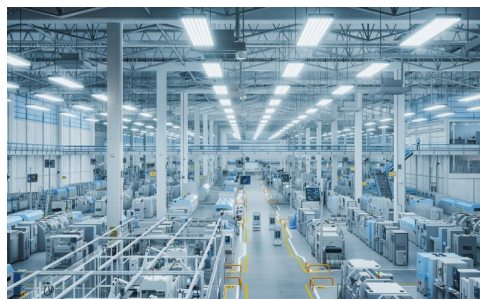
1983年に書き換え可能なICカードを開発して以降、**国内ICカードベンダーとしてトップシェアの地位**を確立。更に、暗号鍵技術を基にスマートフォンで自動車や家、ロッカーなどの鍵の施錠・解錠を行うデジタルキーのプラットフォームを提供。**自動車向けには業界団体CCC※が策定する標準仕様に準拠**。

※CCC : Car Connectivity Consortium



BPO

企業の業務プロセスをトータルに請負うBPO (Business Process Outsourcing)では、**顧客の業務プロセスの最適化を行い、多彩なサービスを組み合わせでワンストップ**で付加価値の高いサービスを堅牢なセキュリティ環境のもとで提供。



工場セキュリティ・3Dセキュア

近年、工場でのサイバー被害が急増。**DNPでは、自社ICカード工場等でのセキュリティ対策のノウハウを活かし、工場向けソリューション**を提供。更に、オンラインでの**クレジットカード決済時の本人認証サービスである「3Dセキュア」**も提供し、25年3月末の導入義務化により普及が加速。



AI審査・AI-Ready Data

DNPでは、**AIを活用した事業を展開**。**顧客の販促物や約款などの校正・審査業務を自動化・効率化するAI審査サービス**を提供。更に、AIドキュメント構造化技術を活用した**「AI-Ready Data事業」**に注力。

DNPの約150年間の歴史を通じ、その黎明期からセキュリティ技術を要する事業に携わり、多くのノウハウを蓄積

DNPは、1876年の創業以来、**拡印刷により事業拡大**してきた。印刷事業においては、発売前の製品情報等の機密情報を顧客から預かり、**高いセキュリティ環境下**で印刷物を製造することを長年行ってきた。現代においては 情報セキュリティの3要素として「**機密性**」「**完全性**」「**可用性**」の3つの要素が重要視されているが、DNPはその維持・向上に努めており、長年のノウハウ蓄積により獲得した**高度なIT/OT※技術がDNPの情報セキュア事業を支えている**。

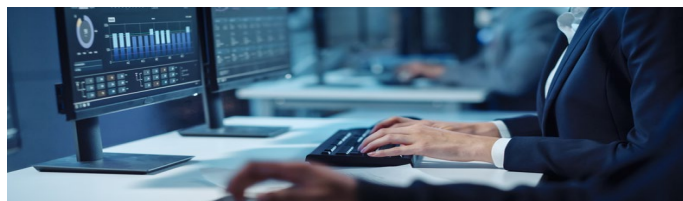
※IT : Information Technology
OT : Operational Technology

誰もが心地よく、無意識に、
安全・安心な生活ができる社会へ

- 2025 Rubicon SEZC社を連結子会社化
- 2024 三菱UFJ銀行、オーストラリアMeeco社と分散型IDの接続実証
- 2023 AI-Ready Data事業を開始
- 2020 自動車向けデジタルキープラットフォームを提供開始
- 2016 サイバー攻撃対策要員養成のサイバーナレッジアカデミー運営開始
- 2014 ベトナム最大手ICカードメーカーMKSmart社と業務・資本提携
- 2010 大手生保 株式会社化業務の一括受託
- 2010 決済システム・セキュリティ製品を扱うインテリジェントウェーブ(IWI)社を連結子会社化
- 2001 携帯キャリア向けSIMカードの供給開始
- 1983 書き換え可能なICカードを開発
- 1973 磁気プラスチックカードの量産体制整備
- 1946 日本銀行券(紙幣)の印刷
- 1899 「大阪市築港公債証書」の印刷
- 1876 DNPの前身「秀英舎」創業



①ICT・セキュリティの独自技術 ②堅牢なセキュリティ体制 ③ワンストップサービス の3つの強みを活用した事業展開を行い、長年に渡り顧客の信頼を得て豊富な実績を上げてきた



① ICT・セキュリティの独自技術

ICカードのOS開発や製造工程設計などで培ったDNPならではのICTやセキュリティの独自技術を、「セキュリティソフトウェア開発」「暗号鍵管理」「製品開発」「製造技術」などに展開し、国際的に高評価。約1,800人のICT専門人材を有する。

認証・ID管理

オンライン本人確認サービス、ICカードリーダーなど

監視・管理

監視カメラ、監視システム、入退場ゲートなど

IoT・デバイス

NFCタグ認証、IoTプラットフォーム、デジタルキーなど

サイバーセキュリティ

エンドポイントセキュリティ、クラッキング防止など

暗号鍵管理

暗号鍵管理システム、ハードウェアセキュリティモジュールなど

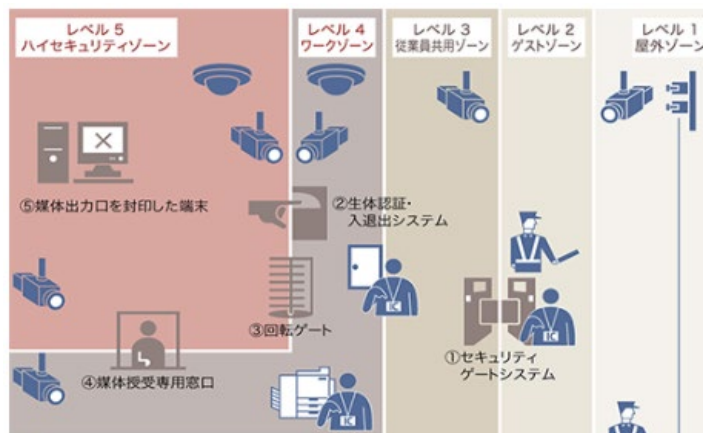
セキュリティコンサル・教育

情報セキュリティコンサルティング、人材育成・教育プログラムなど



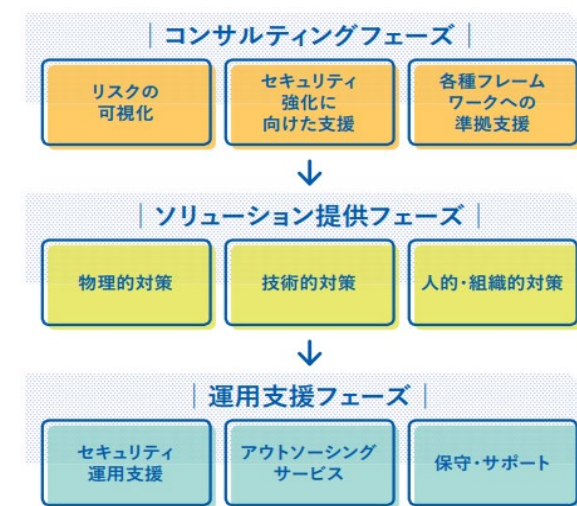
② 堅牢なセキュリティ体制

全国の製造・開発拠点は、監視カメラや入場制限などのハード面、サイバー攻撃対策、従業員教育の徹底などソフト・運用面の両面から、高度で堅牢なセキュリティ体制を構築。事業継続やリスク管理面でも最高ランクの格付を取得している。



③ ワンストップサービス

金融・メーカー・リテール・インフラ・公共系等の多くの業界において、コンサルティング～ソリューション提供～運用までをワンストップで行っている。

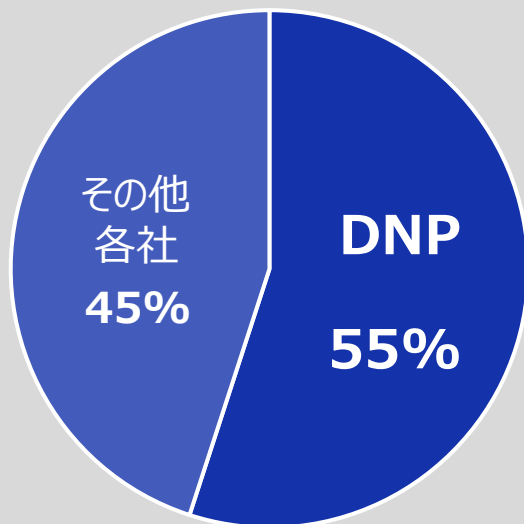


市場シェア（一例）

DNP

安全・安心な決済に欠かせないICカードの世界的な先駆者で、製造・発行領域で国内トップシェアの地位を維持
オンライン決済においてはFEP※等の認証サービスを提供し、政府のキャッシュレス化の推進に大きく貢献

国内ICカード
DNPはシェアNo1！

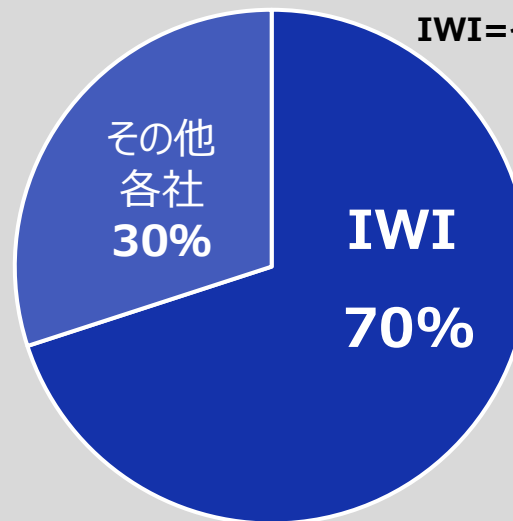


国内DUALインターフェースカード
製造枚数

(株)富士キメラ総研「デジタルID/認証ソリューションビジネス市場調査要覧
2024」より抜粋
2023年度実績、数量ベース

FEP※
インテリジェントウェイブ(IWI:DNPグループ)は
国内シェアNo1！

IWI=インテリジェントウェイブ



主要クレジットカード会社
導入社数（IWI社調べ）

※Front End Processorの略称で、カード決済時のカード会社と各種決済
ネットワーク接続/カード利用認証などを行うシステム
2023年度実績

成長市場への取り組み

単位：億円 **DNP**

本人情報を登録・認証する政府向けID認証サービスを提供しているRubicon SEZC社をグループ会社化
今後の市場成長が見込まれるアフリカ・アジア・南米等の地域を中心に取り組みを強化する

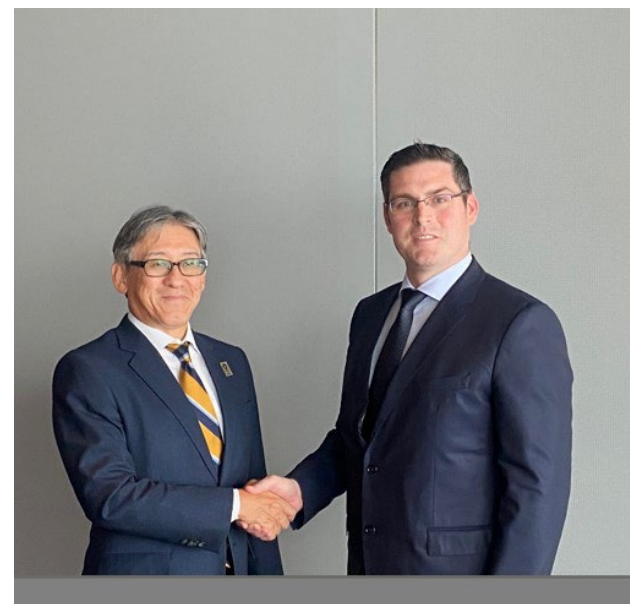
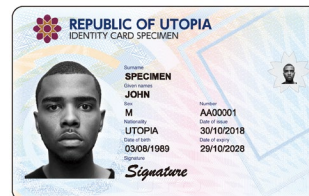
これまでもベトナムMKSmartへの出資(2014)、インドネシアWahyu Kartumasindo InternationalとのJVであるPT. Wahyu DNP Bureau設立(2016)など、ICカード分野での取り組みを行ってきた。

Laxtonブランドで主にアフリカなどの新興国の政府向けに生体情報を活用したID認証サービスを展開し、業務コンサル～生体情報の登録・認証機器～ソフトウェア～保守・サポート等をワンストップで提供し、**世界50以上の国・地域で導入実績を持つRubicon SEZC社を2025年7月にグループ会社化。**

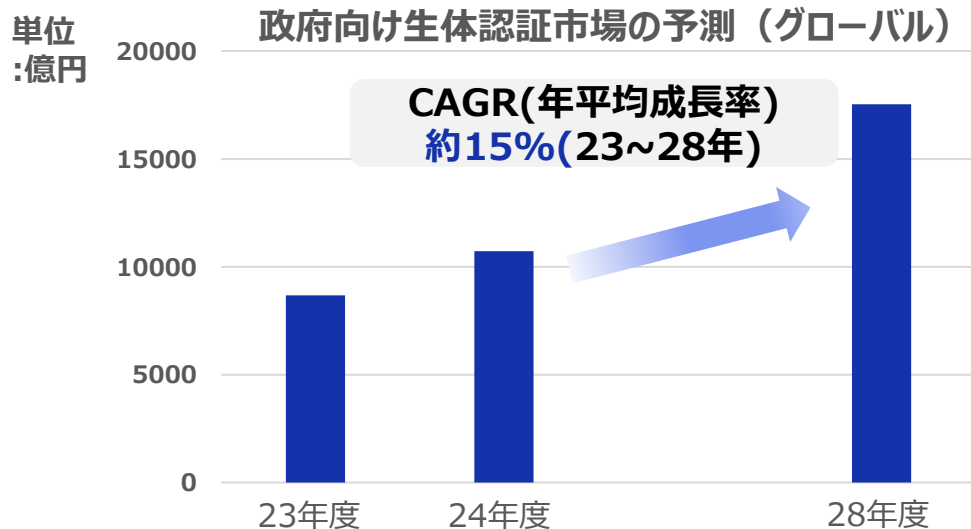
今回のRubicon社の買収を通じて両社のシナジーの最大化を図り、海外の政府向けID認証サービス事業で、**2030年度までに累計1,400億円の売上**を目指す。



Rubicon SEZC社の個人の生体情報（顔、指紋、虹彩）を登録～認証する機器・ソフトウェア



2025年6月17日
オランダ アムステルダムにて
Rubicon社との契約締結式の様子



出展：DataIntel Solutions LLP

国民IDカードや選挙カードを現地で即時発行

情報セキュア市場においては、DX化・サイバー攻撃増・オンライン決済の取引増・人手不足等を背景に
今後も安定的な市場成長が見込まれる

国内デジタルキー搭載
自動車出荷台数予測

国内工場セキュリティ
市場予測

国内オンライン決済
取り扱い額予測

国内法人向け
AI-Ready Data市場予測

国内非IT系BPO
市場予測

グローバル
金融カード市場予測

CAGR
約6%(24~28年)

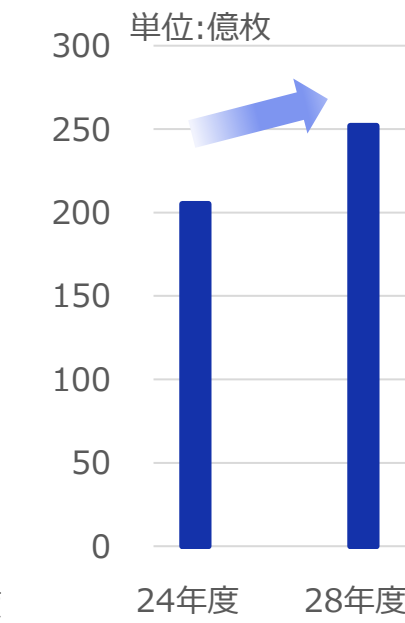
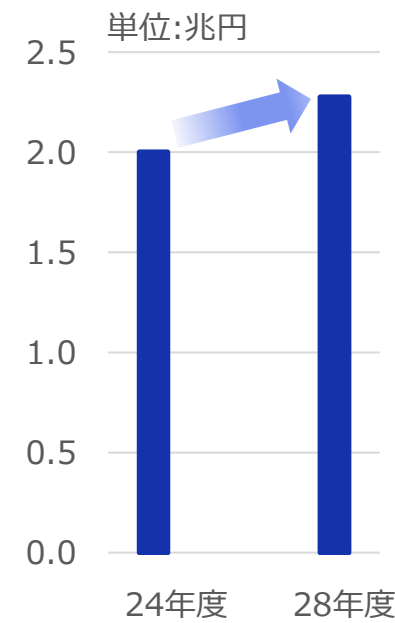
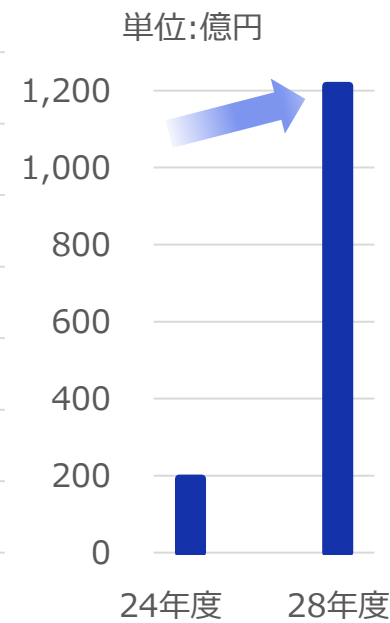
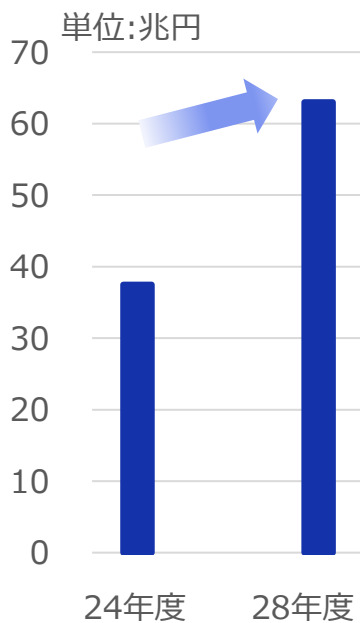
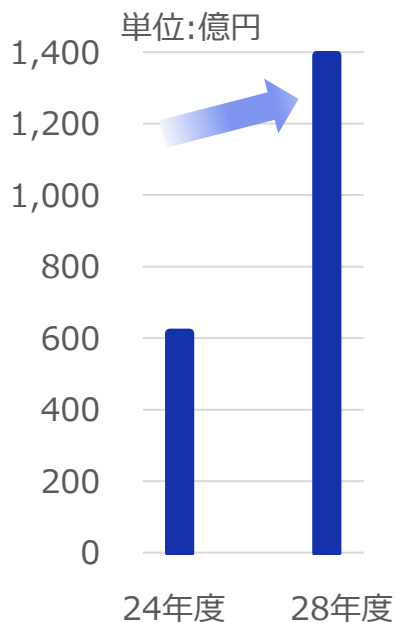
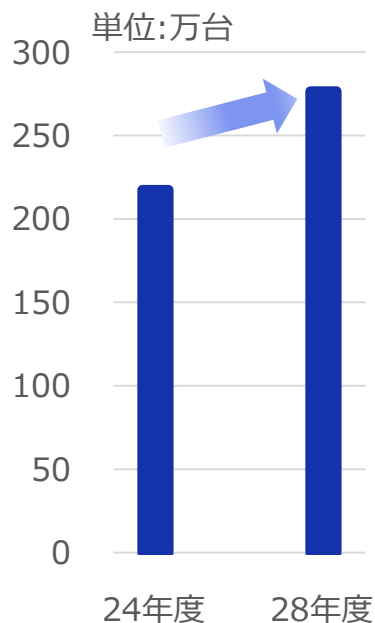
CAGR
約23%(24~28年)

CAGR
約14%(24~28年)

CAGR
約59%(24~28年)

CAGR
約3%(24~28年)

CAGR
約5%(24~28年)

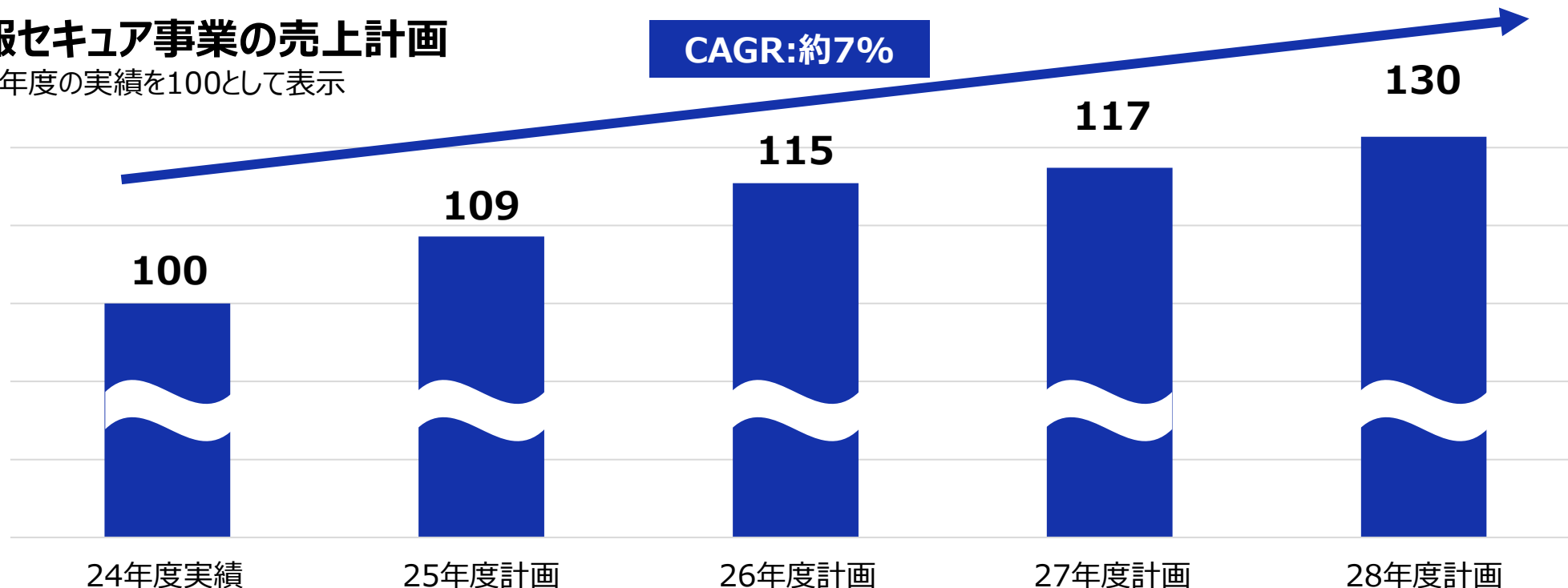


成長戦略

- **製品・サービスの最適な掛け合わせ**により、高付加価値サービスを市場へ投入
- **DNPの情報セキュア事業の強み**×**パートナー企業**との協業体制による市場シェア拡大
- **人口ボーナスと経済発展**が期待される**新興国の有望市場**などへの積極的な投資を促進

情報セキュア事業の売上計画

※24年度の実績を100として表示



(1)中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2)持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3)事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

フォトイメージング関連

DNP

未来のあたりまえをつくる。

事業概要：主な製品・サービス

DNP

印刷で培ったコーティング技術に応用し、日本、北米、欧州、アジアの製造・販売拠点を通じて、さまざまなイメージング製品・サービスの企画、材料開発、製造、販売を展開している。

昇華型熱転写製品

DNPブランドによるフォトプリンター/メディア



- 昇華型熱転写メディア
- 昇華型デジタルフォトプリンター
 - DS620：4×6"
 - DS820：8×10"
 - DS820DX：8×10"両面多機能
 - RX1HS：新興国モデル

フォトサービス・ソリューション



- テーマパークフォト(colorvision他)
- ファンフォトブース(Innovative Foto他)
- イベント用撮影システム(sharingbox他)
- 証明写真機Ki-Re-i(キレイ)
 - DNP顔画像収集サービス
 - プロフィール写真サービス

世界トップシェア製品

DNP

写真プリント用昇華型熱転写記録材は、デジタル画像出力用途として世界中で広く利用されており、DNPは海外拠点設立とM&Aにより事業を拡大し世界シェア約70%を保持している。



- 1981年 印刷技術の応用による昇華型熱転写記録材の基礎検討開始
- 2004年 米国でフォト事業開始
- 2005年 日本でのフォトキヨスクプリント事業開始
- 2006年 ユニカミノルタグループより写真事業を譲受(営業拠点強化)
- 2007年 欧州でのフォト事業開始
- 2011年 ソニーよりデジタルフォトプリンター事業譲受(開発力強化)
- 2013年 マレーシアに製造拠点設立
- 2016年 DNPの上海グループ会社にフォト部門設置
- 2020年 米国Colorvision International社の全株式取得(コトづくり強化)
ベルギーSharingbox社の全株式取得
- 2023年 スペインに販売拠点の設立

グローバル拠点とサプライチェーン

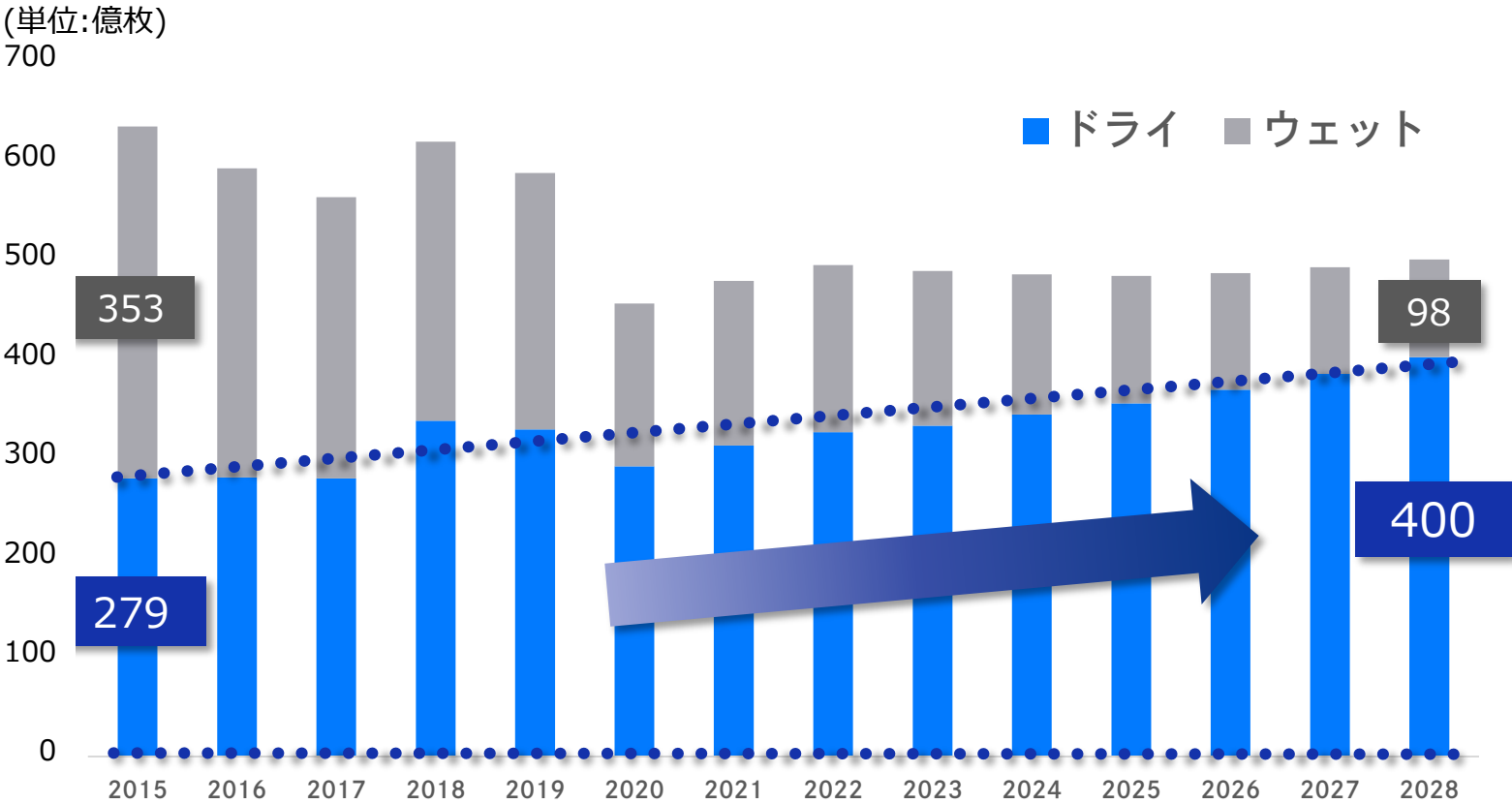
DNP

販社・販売代理店を通じ世界100カ国以上で30万台以上のプリンターを稼働。年間48億枚以上のフォトプリントを提供し、マーケットを反映した製品開発と最適地生産も強みとなっている。



全世界フォトプリント枚数(4×6"換算)

銀塩方式を含む全世界での写真プリント全体では市場が縮小も、昇華やインクジェットなどのドライ方式は成長している。昇華方式は小ロット、オンデマンドプリントに優位性がある。

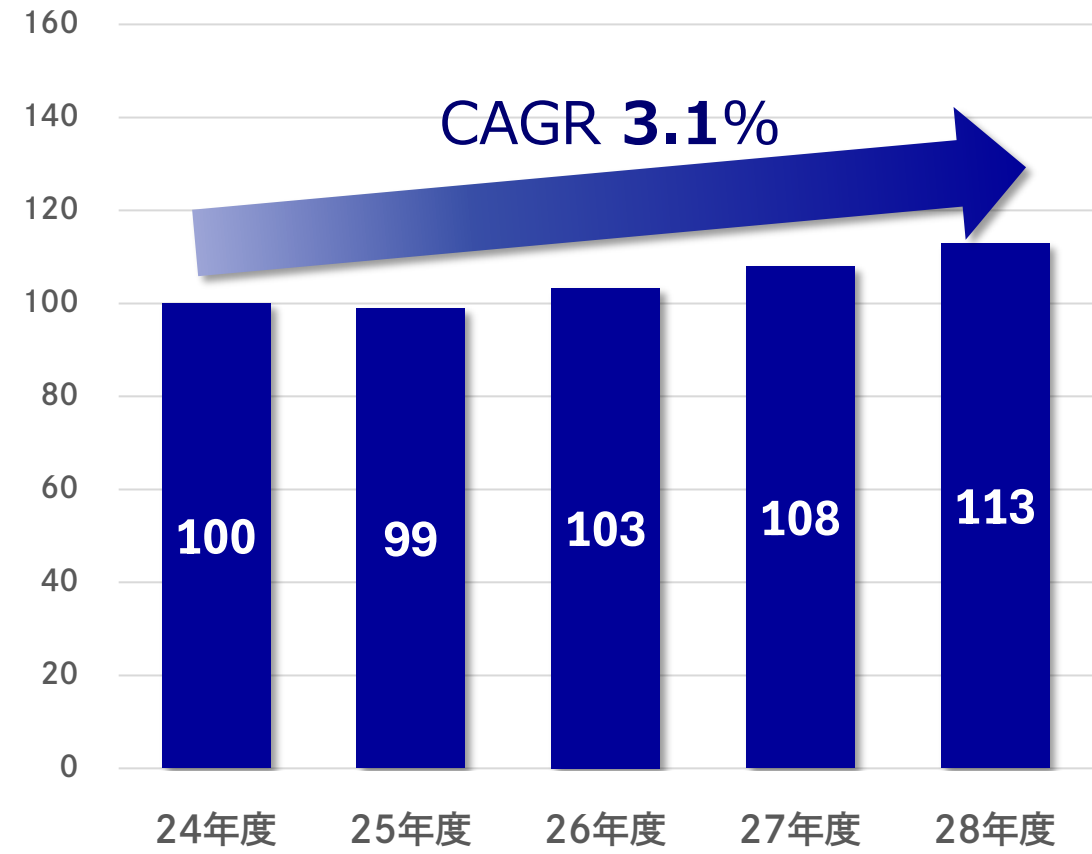


From Schoeller, Robinson Report. Forecasts from 2022 and beyond

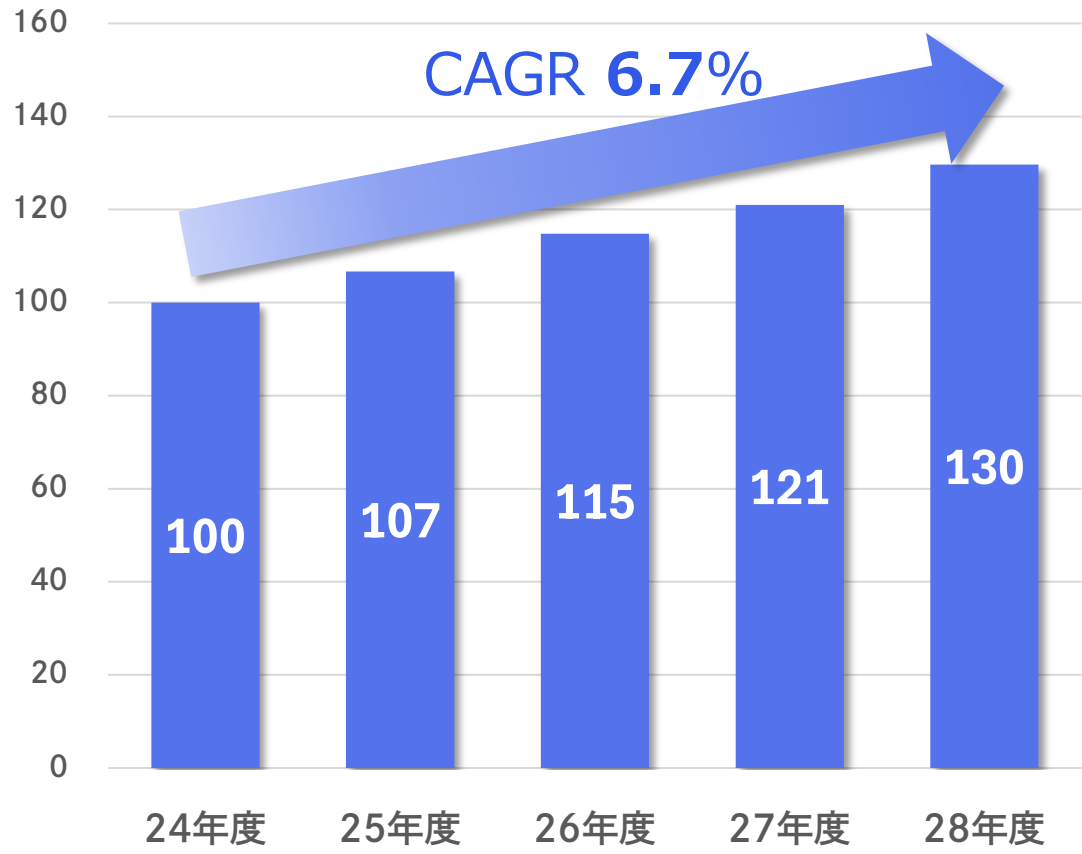


フォトイメージング 成長性

DNP



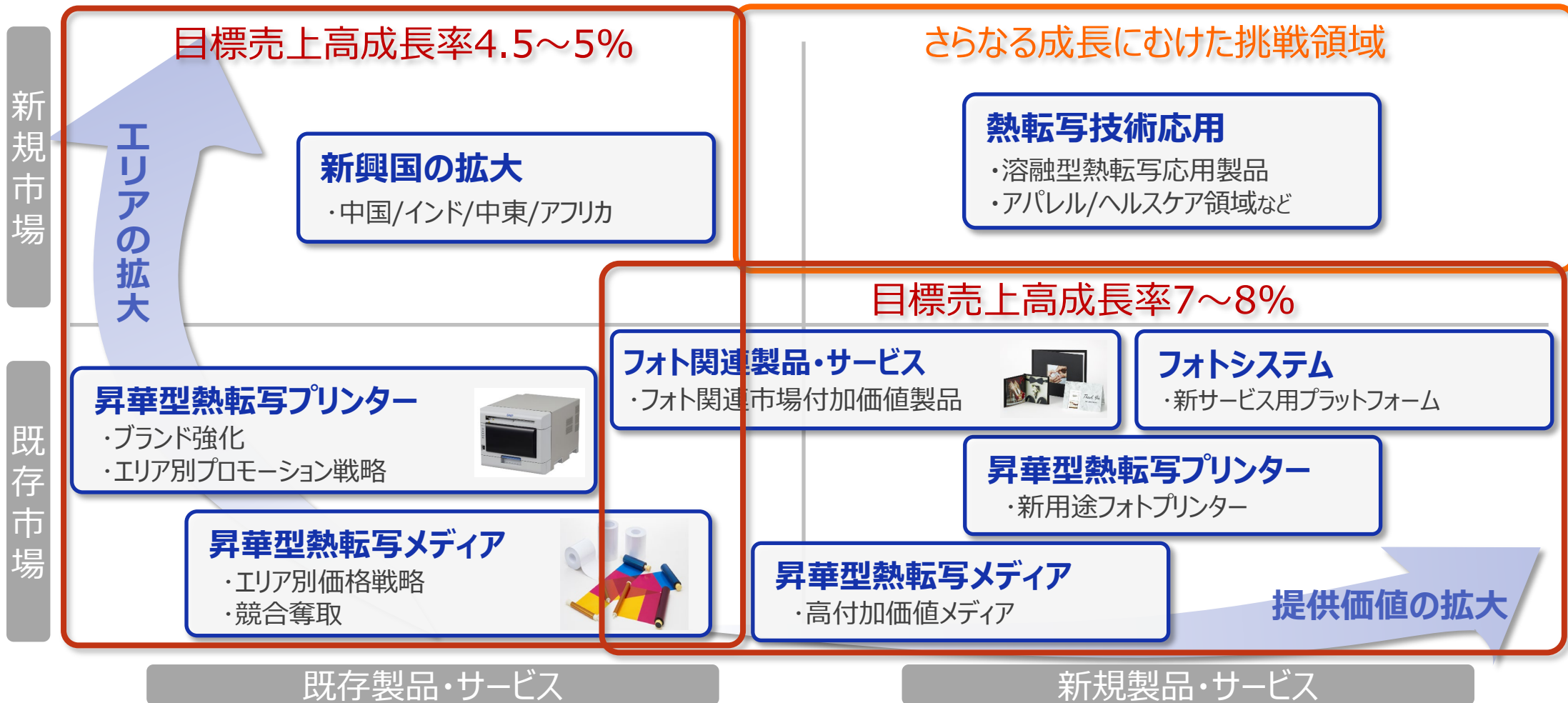
売上高



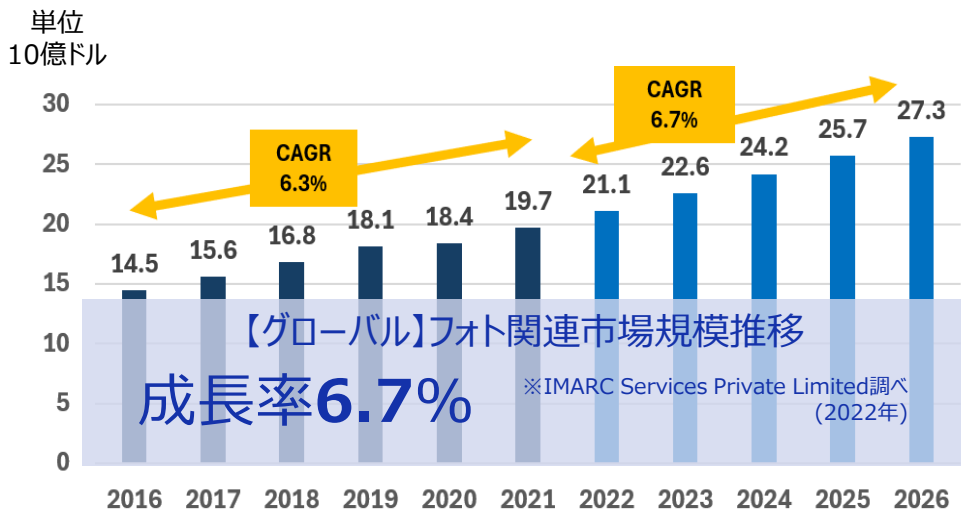
営業利益

2024年を100とした場合の成長性

『あらゆる想いをカタチにし、笑顔と安心に満ちた世界をつくる。』



成長するフォト関連市場への対応



スマートフォンの普及により撮影枚数は世界的に増加。とっておきの瞬間や思い出をフォトブックやカレンダーなどで残し楽しむ需要が拡大している。



新型プリンターにより高付加価値な写真を強化

世界最軽量クラスの8インチ両面プリンター DP-DS820DX (2024年6月発売開始)



昇華型熱転写方式の特長(高画質・コンパクト性)
+ 新機能搭載で、1台でさまざまなフォトグッズを生活者にご提案。

大判両面プリント



クリース機構



縦方向カッター



とっておきの写真をさまざまなカタチで世界中に届ける

DNPグループ IR-Day 2025

DNP

(1) 中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2) 持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3) 事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

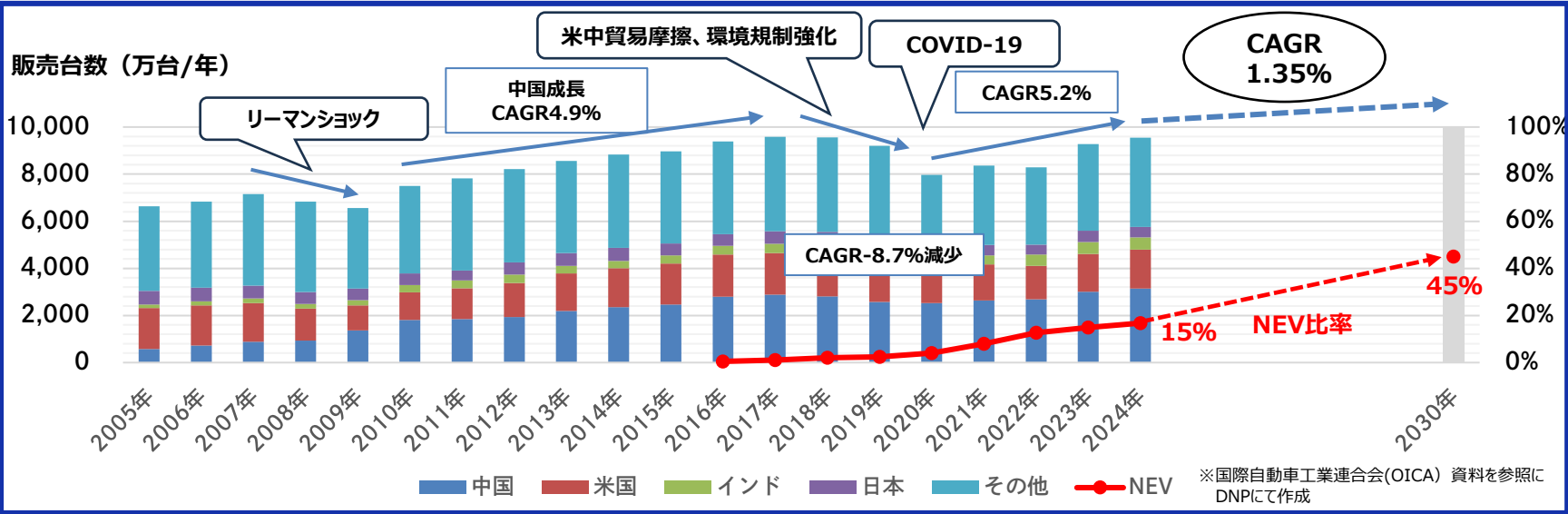
モビリティ関連

DNP

未来のあたりまえをつくる。

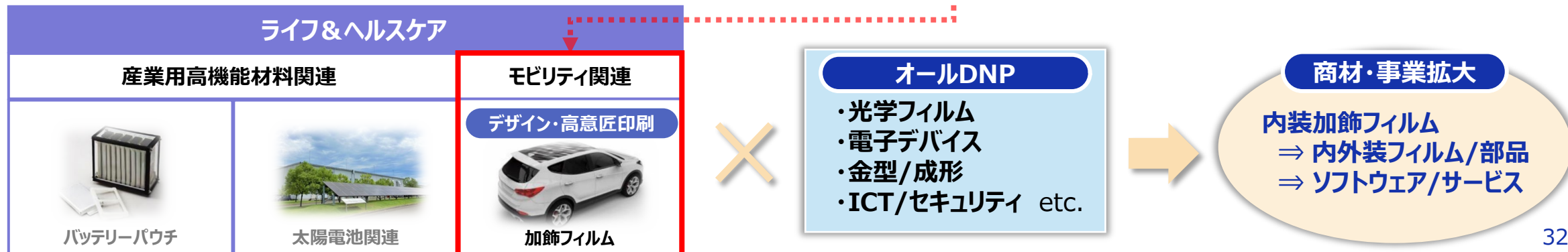
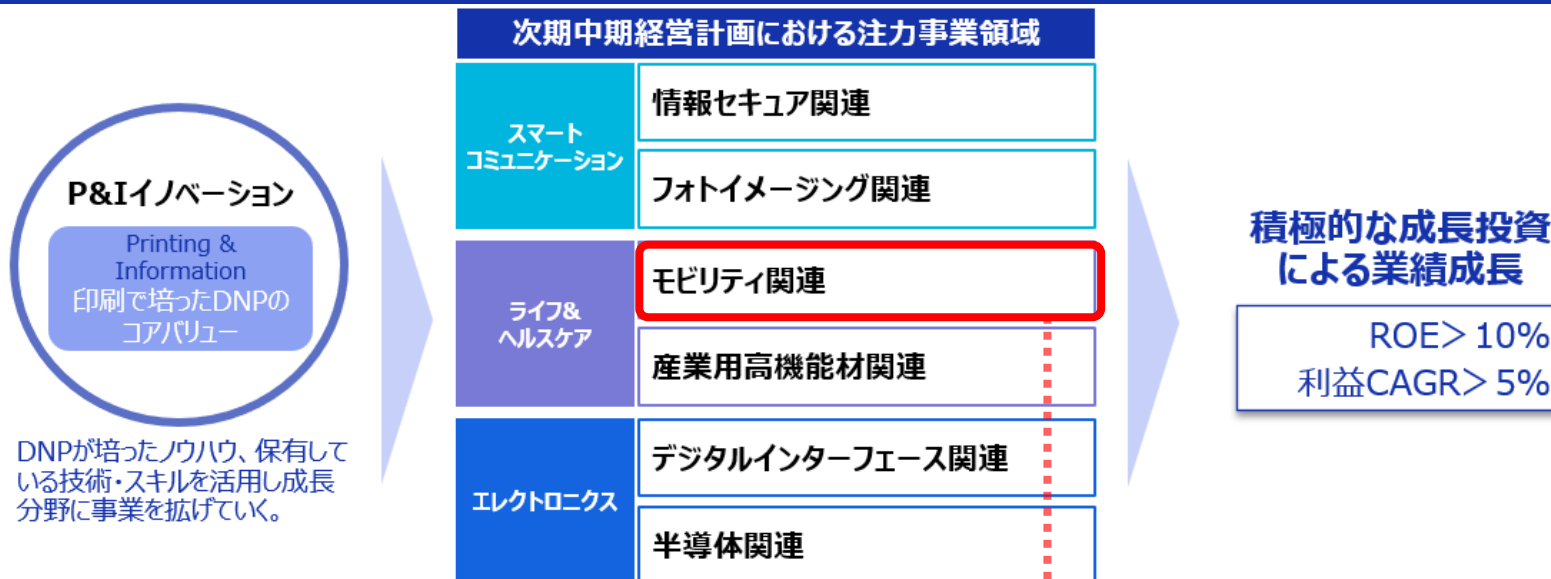
自動車市場は「100年に一度の変革期」を迎えている ⇒ DNPにとって飛躍のチャンス

世界自動車
販売台数
推移



モビリティ関連は注力事業

加飾フィルムをベースとし、オールDNP（3つの事業セグメント及び外部パートナー連携含む）の強みを活かし、商材・事業を拡大



事業戦略 - 加飾フィルムの展開

DNP

オールDNPの強みを活かし市場の変化に対応

内装フィルム

デザイン

高意匠印刷



市場の変化

環境対応

デジタル
インターフェース
・HMI

市場シェア
現状20%⇒50%以上を目指す

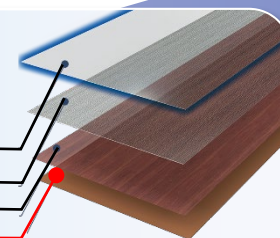
主な展開（内外装新商材）

モノマテリアル
リサイクル対応

・ポリプロピレン基材対応

フィルム基材（ABSからPPへ）

トップコート
エンボス
印刷



外装フィルム

・2トーンルーフ（詳細次項）
・塗装代替
・ライティング



光透過型フィルム

・シームレスデザイン
・ハイエンドHMI



参考）加飾部品の工程

DNP



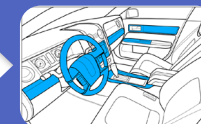
デザイン



加飾フィルム



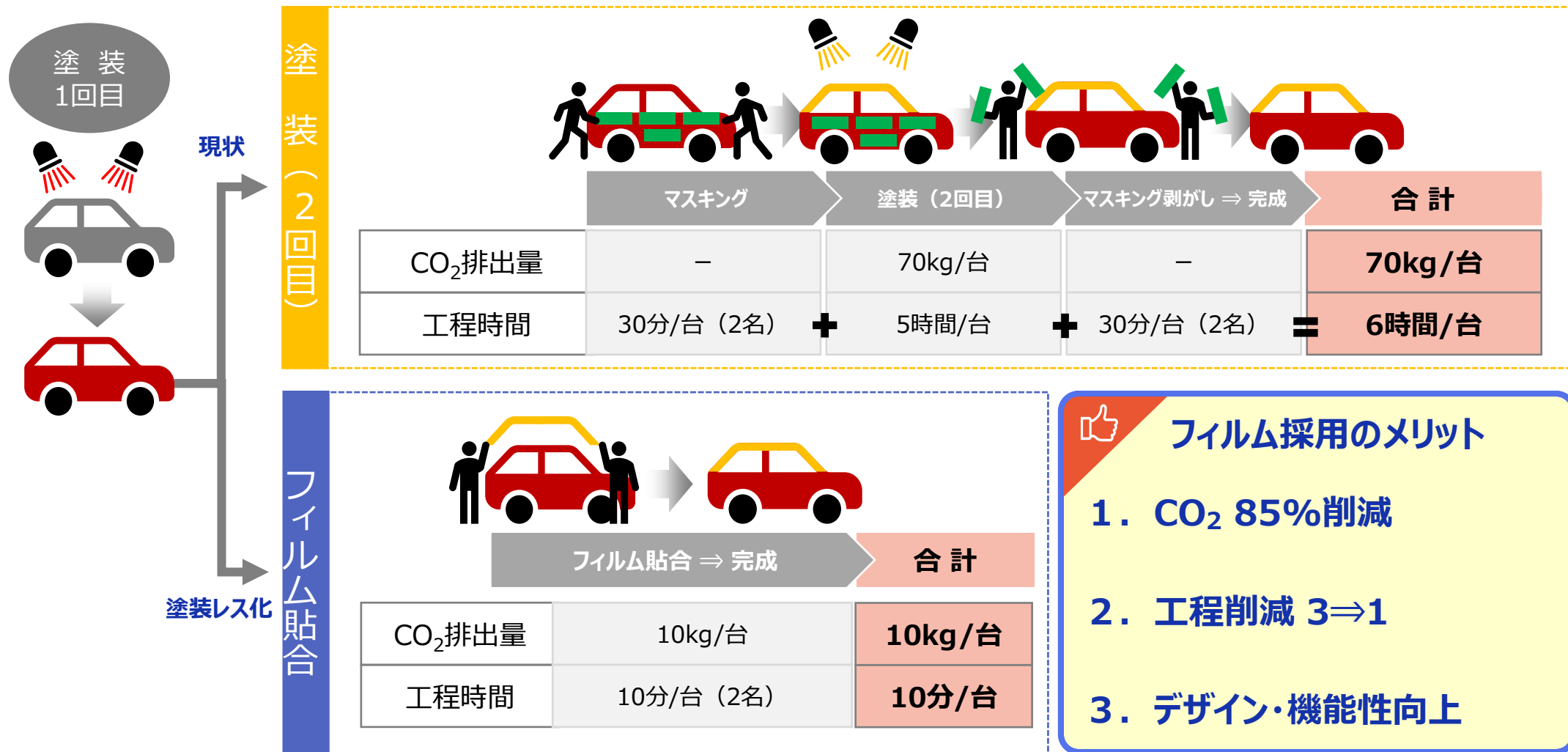
成形加工



組み立て

(参考) 外装加飾フィルムのメリット - 2トーンルーフの例

DNP



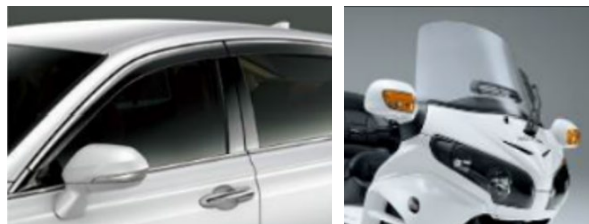
※CO₂排出量、工程時間は当社調べ

事業戦略 - 成形部品への展開

DNP

オールDNPの強みを活かし市場の変化に対応

DNP田村プラスチック



市場の変化

環境対応

デジタル
インターフェース
・HMI

DNP光金属



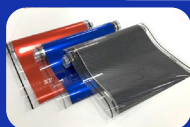
株式会社光金属工業所（2025年2月 グループ化） ⇒ （詳細次項）

参考）加飾部品の工程

DNP



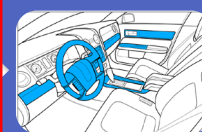
デザイン



加飾フィルム



成形加工



組み立て

主な展開（成形部品新商材）

リサイクル材・環境材料



＜市場シェア＞ 現状50%⇒70%以上を目指す

ハイエンドHMI部品



＜市場シェア＞ 現状30%⇒50%以上を目指す

(参考) DNP光金属 紹介

DNP

高い加飾成形部品技術や製造ノウハウが強み

<株式会社DNP光金属>

- ・事業内容：自動車向け成形品等の内装部品製造
産業機器等向け加飾・表示部品製造
- ・製造拠点：本社工場、笠寺工場、大高工場、
中国工場
- ・従業員数：263名（2024年7月時点）

製造拠点

国内拠点
本社+3工場

中国拠点
1工場

丹陽工場

自動車成形品



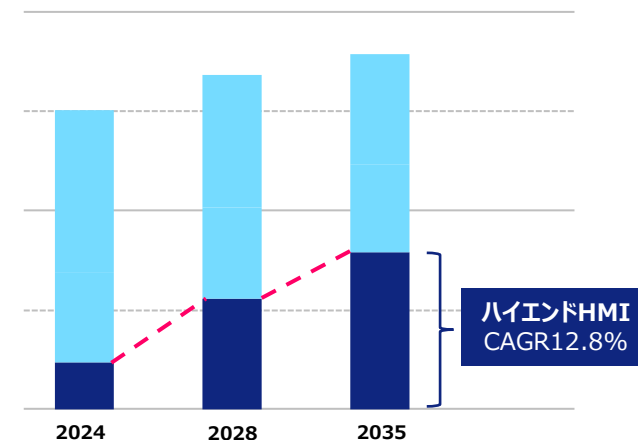
産業機器/医療機器/住設向け スイッチパネル・データシール etc.



DNPの生活空間関連事業とのシナジーあり

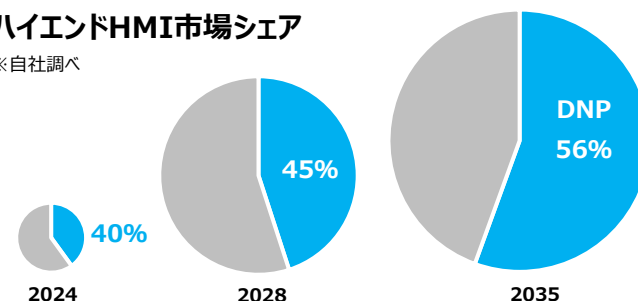
自動車用スイッチ・表示部品市場

※自社調べ（売上ベース）



ハイエンドHMI市場シェア

※自社調べ



(参考) 成形部品の展開

DNP

光金属工業所のグループ化により、ハイエンドHMI領域へも事業拡大



DNP田村プラスチック

(2022年)

加飾フィルム市場から成形部品市場へ参入

DNP光金属

(2025年)

ハイエンドHMI部品への参入
拠点) 国内:名古屋 海外:中国丹陽

オールDNPシナジー

3つの事業セグメント及び外部パートナーとの連携で新領域へも挑戦

大きく変化・拡大する領域（ソフトウェア、サービス、電動化、自動運転、etc.）への参入

ソフトウェア

DNP ICT/セキュリティ技術 × パートナー連携



2024年8月 業務資本提携

車載デバイス用ソフトウェアやコネクテッド基盤開発参入

電動化

DNP エレクトロニクス技術

ワイヤレス給電コイル
(駐車中・走行中)



人と社会をつなぐスマート社会

サービス (MaaS)

DNP ビジネスネットワーク × パートナー連携



琉球日産自動車株式会社
2025年6月 FC契約

カーシェア事業参画

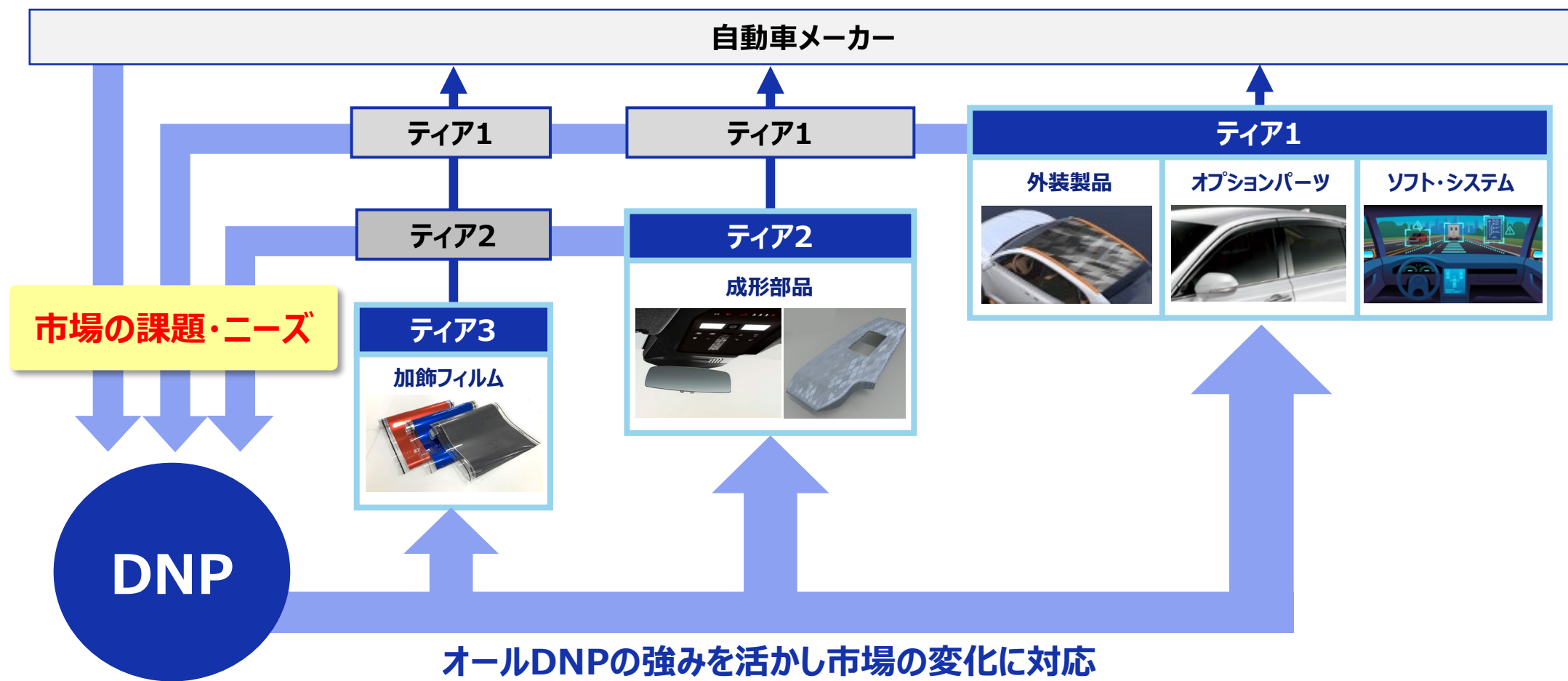
自動運転

自動運転システム分野への参入検討中

事業戦略 - ビジネスモデルの変革

DNP

広く市場の課題・ニーズを把握
商材毎に最適なポジションで高付加価値製品・サービスを提供

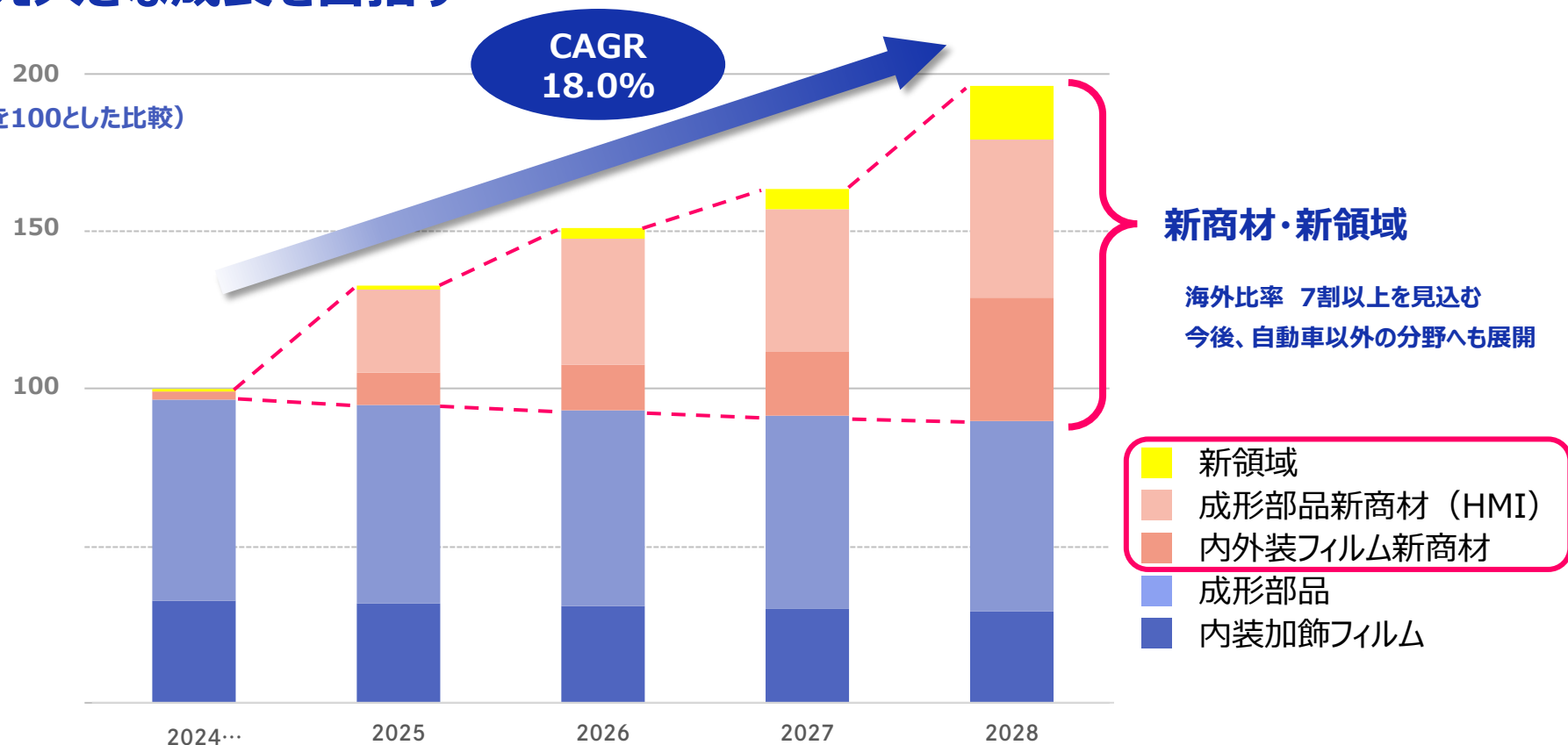


既存商材のシェアアップ・用途拡大及び新領域への参入により事業の成長を見込む
事業拡大に向け設備投資・M&Aを積極的に進める

市場の変化を捉え大きな成長を目指す

売上高

(FY2024の実績を100とした比較)



DNPグループ IR-Day 2025

DNP

(1) 中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2) 持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3) 事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

バッテリーパウチ

DNP

未来のあたりまえをつくる。

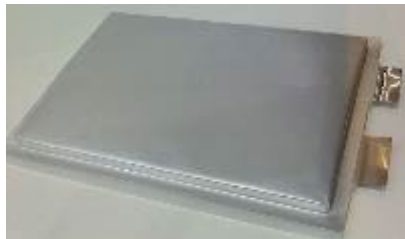
事業概要

DNP

製品イメージ

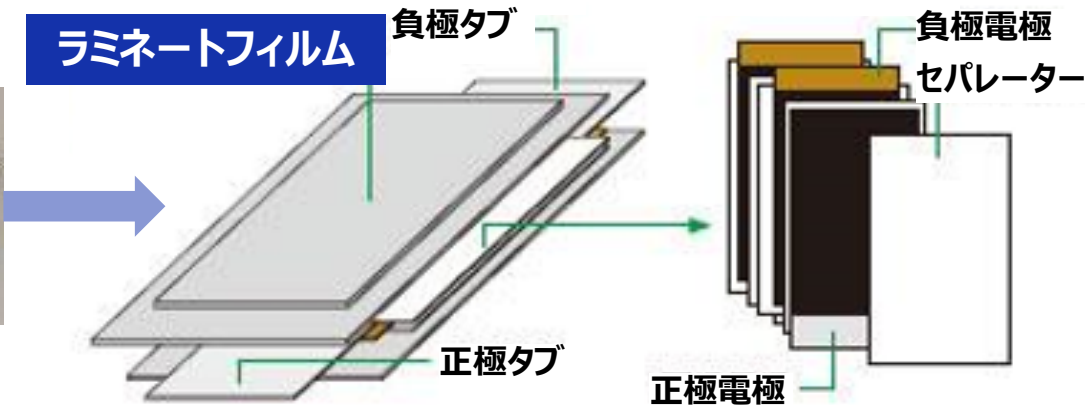


バッテリーセル

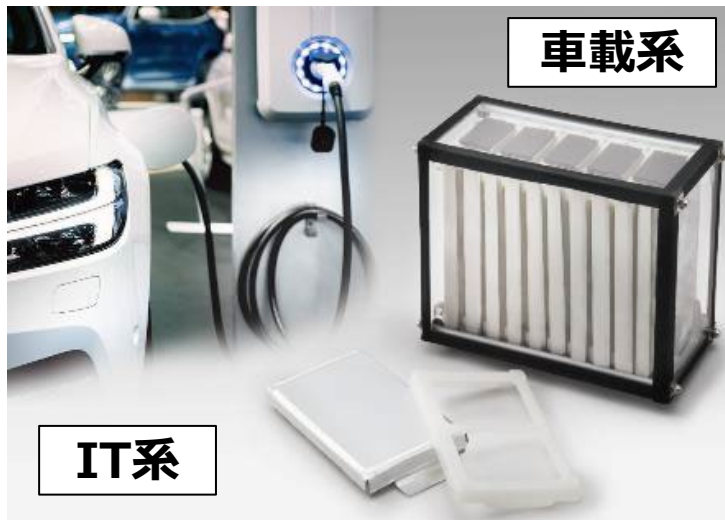


ラミネートセル構造

ラミネートフィルム



製品展開



パウチに必要な機能

電解液を漏らさない為の**高いシール性・気密性**

外部からの水の混入を防ぐ為の**高い水蒸気バリア性**

電池容量を稼ぐ為の**高い成形性**

高電圧・大型電池対応の為の**高い絶縁性**

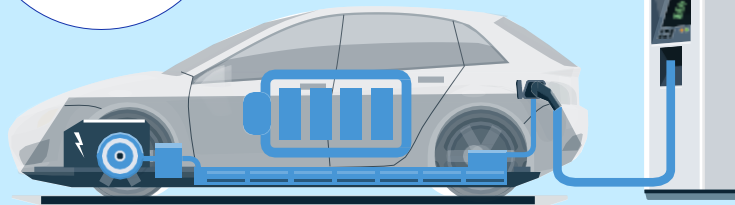
過酷環境下での安定稼働の為の**耐熱・高温下での安定性**

トップシェアを誇る製品

DNP

世界
No.1

リチウムイオン電池用
バッテリーパウチ



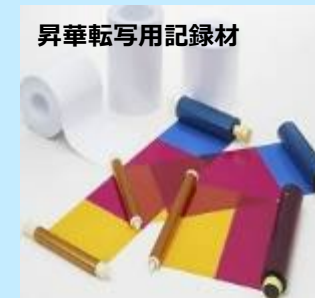
ディスプレイ用
光学フィルム



(視野角制御フィルム)



昇華転写用記録材



国内
No.1



非接触 IC カード
(金融系 IC カードなども国内 トップシェア)



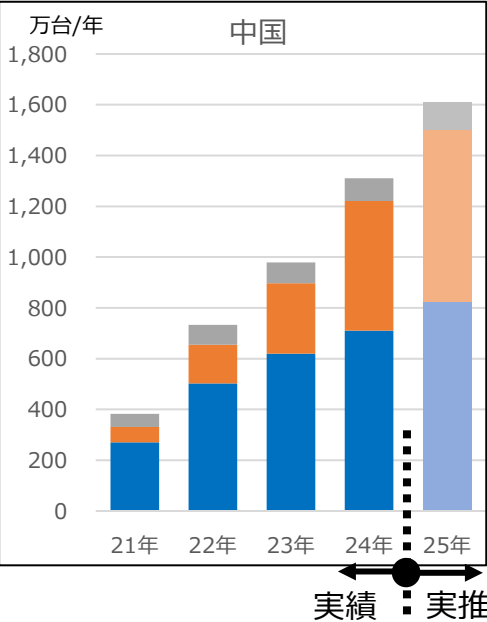
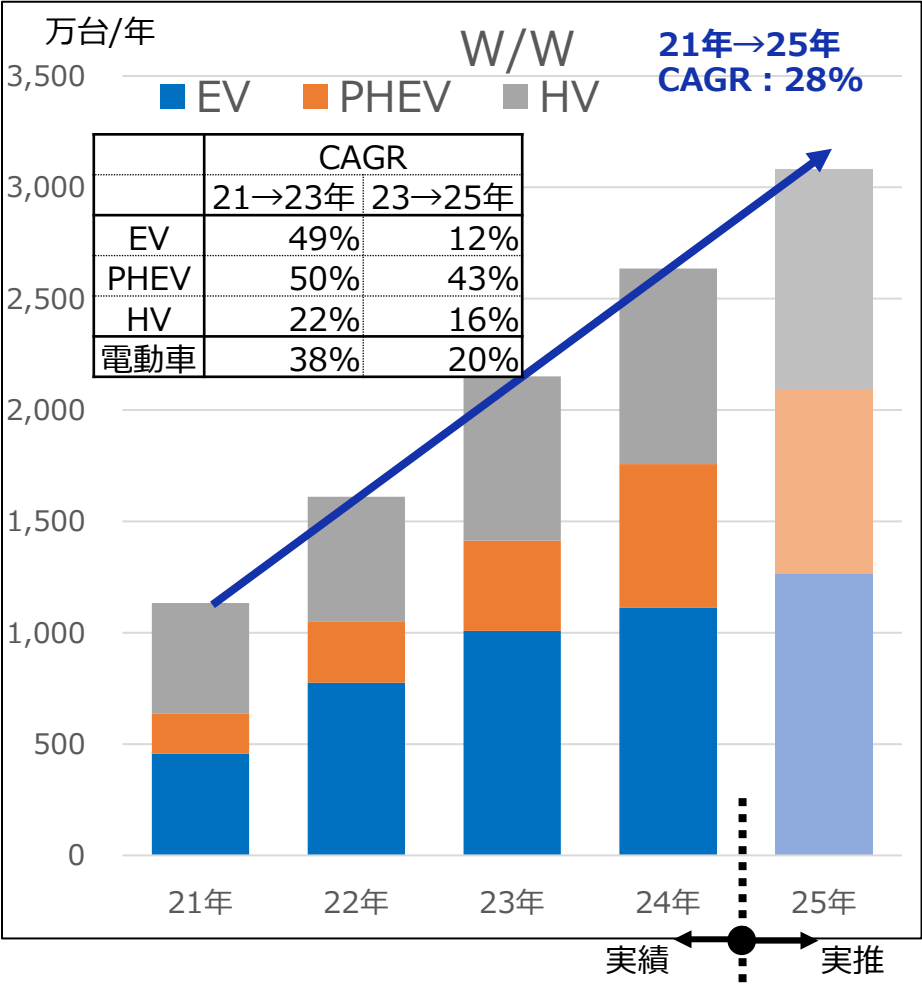
住宅用内装材(床壁紙)



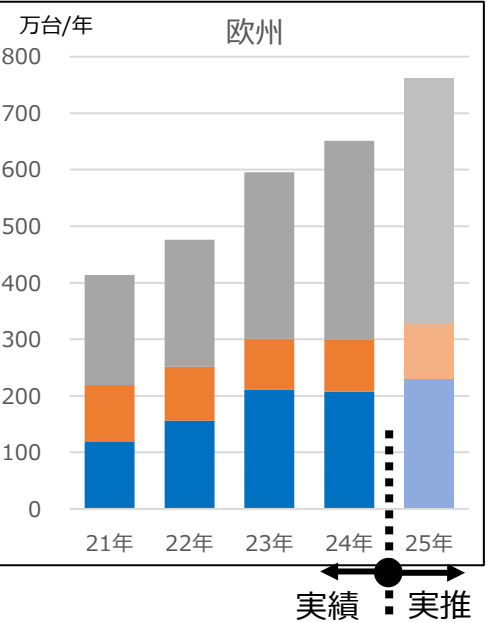
ペットボトル飲料用
無菌充填システム

電動車（EV、PHEV、HV）の市場動向 販売実績

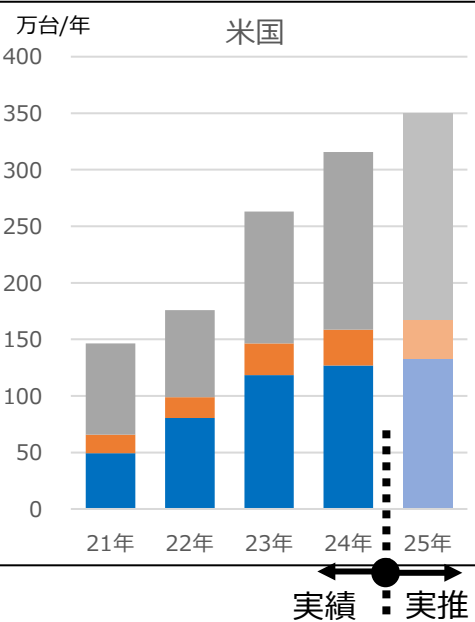
電動車の新車販売台数において増加傾向が鈍化している。その中で、EV、PHEVは中国が牽引
 欧米は、HV大きく伸ばすも、EV/PHEV微増にとどまっている



	CAGR	
	21→23年	23→25年
EV	51%	16%
PHEV	115%	60%
HV	27%	11%
電動車	60%	30%



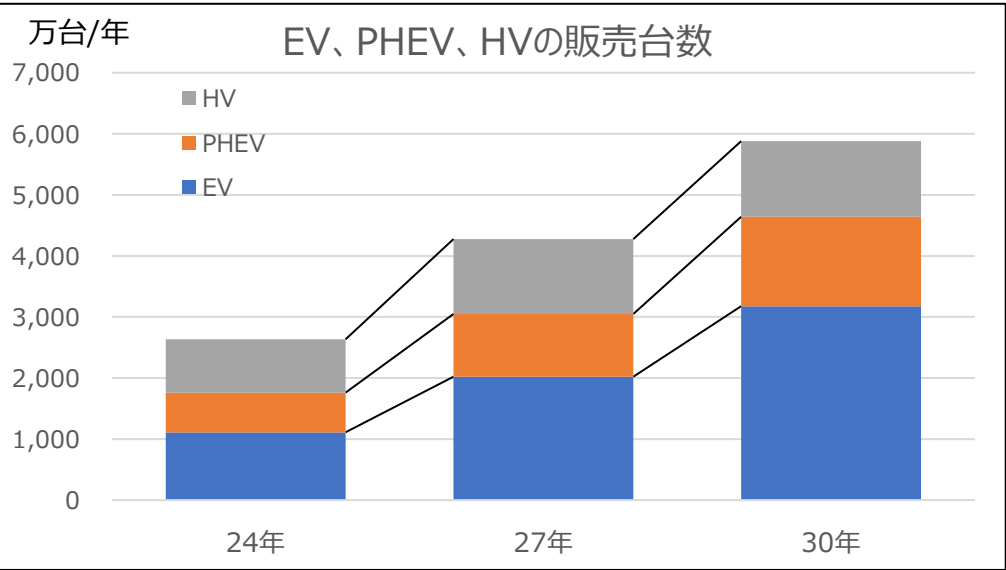
	CAGR	
	21→23年	23→25年
EV	33%	5%
PHEV	-5%	5%
HV	18%	21%
電動車	20%	13%



	CAGR	
	21→23年	23→25年
EV	55%	6%
PHEV	31%	12%
HV	20%	25%
電動車	34%	15%

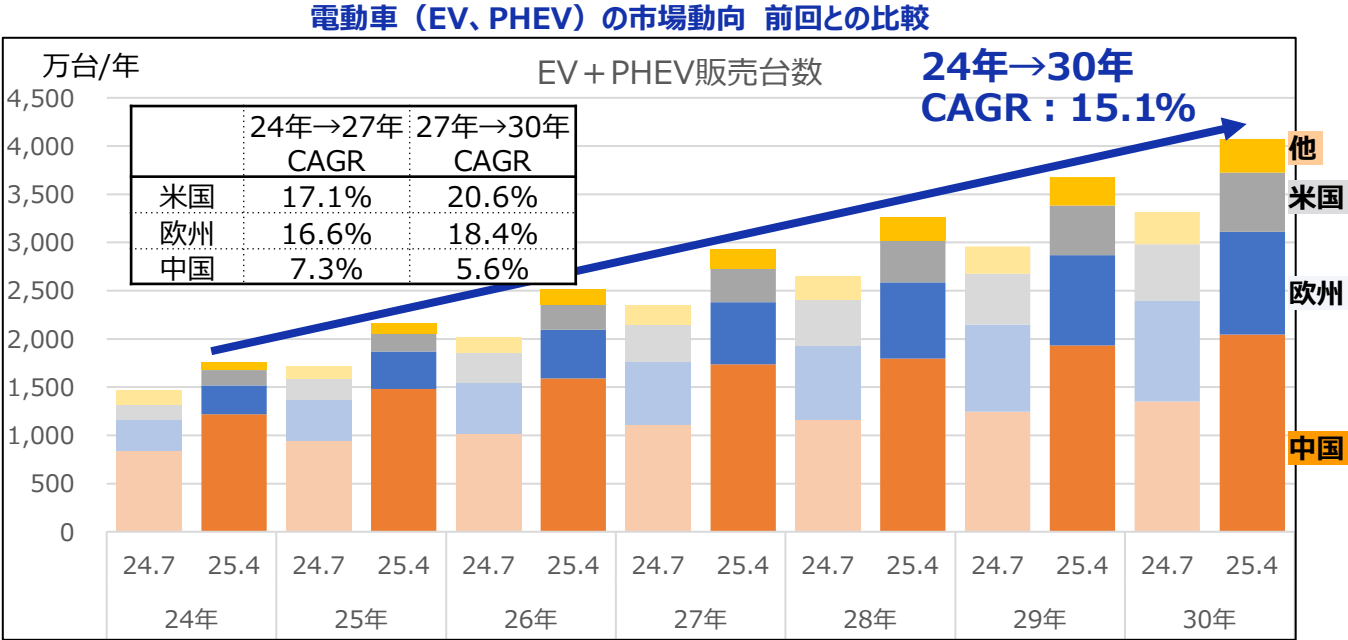
電動車（EV、PHEV、HV）の今後の市場動向について

DNP



	24→27年 CAGR	27→30年 CAGR
EV	22%	16%
PHEV	16%	13%
HV	12%	1%
電動車	18%	11%

- 従来のEV偏重から**短期的には電動車の多角化**が起こっている（EV、PHEV、HV）
- 27年以降は、インフラ整備、車種増加、低価格対応で**EV、PHEVが市場牽引**を見込む



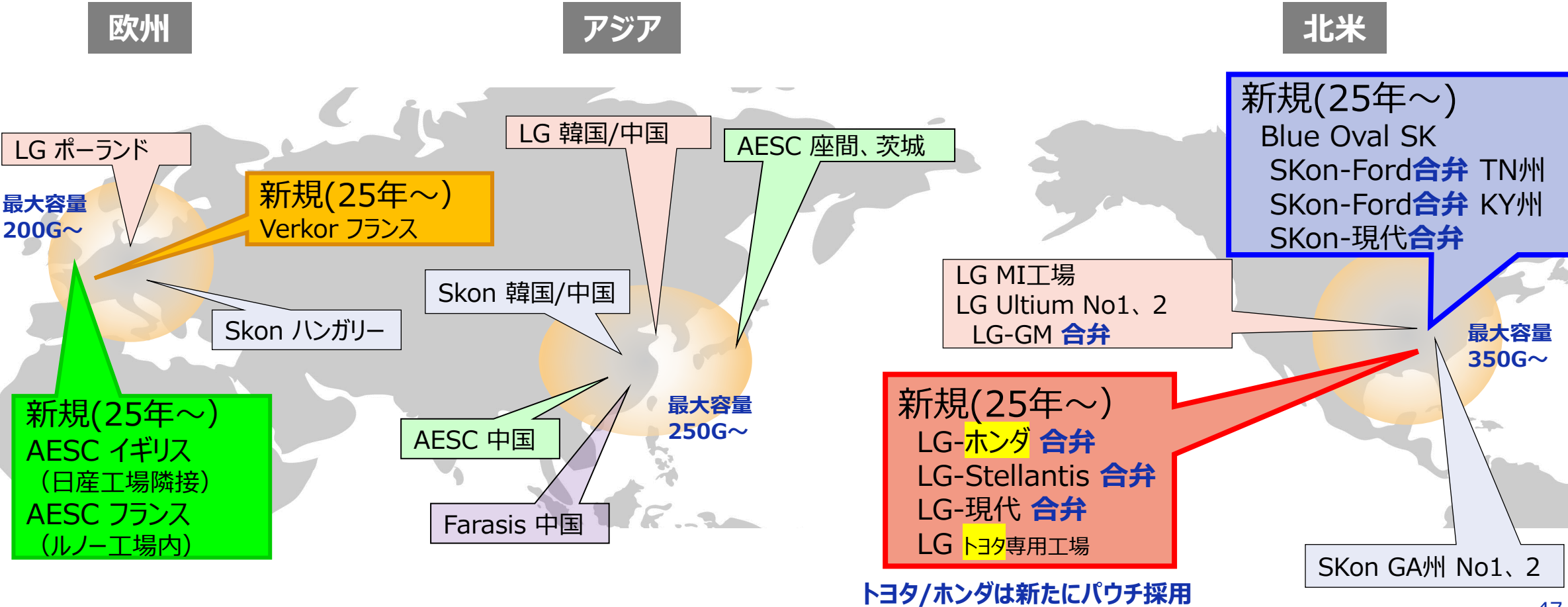
出典：Global Data、マークラインズ/各国政策、自動車メーカープレスリリースなどをもとに当社予測

- 中国が電動車市場を牽引
27年以降は欧米でも電動車の浸透が進むと見込む
→**中期的には、自動車の電動化（EV、PHEV）の流れは変わらないとみる**
- 欧州はCO2規制が後ろ倒し、米国でのIRA補助金の減額（廃止）は短期的に成長の伸び鈍化
 - 一方、欧州CO2規制は、将来的に更に厳しくなる予定→EV、PHEV化必要
 - 中期的にはインフラ整備、車種増加、低価格対応でPHEV、EVの増大見込む

主要なパウチ仕様の電池工場

DNP

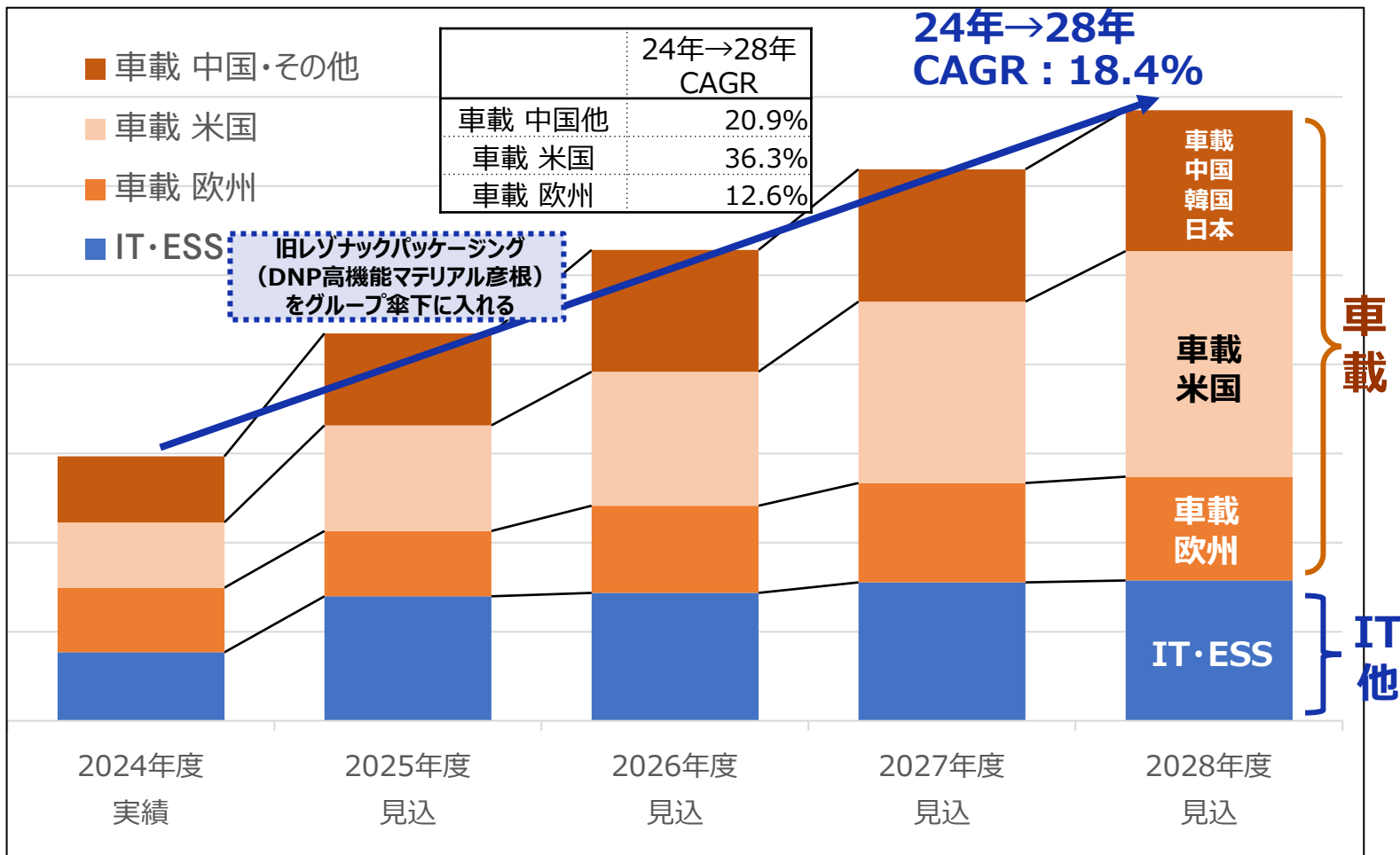
既設工場に加えて25年～26年にかけ、欧州・米国共にパウチ型電池工場の新たな稼働が予定されている
今後の稼働予定工場は、電池メーカーと自動車メーカーの合併や契約ベース案件多く、安定的な需要を見込む



バッテリーパウチ（BP）の事業計画

DNP

25年以降、レゾナック・パッケージ社をグループに入れ製品領域拡大（IT系、ESS）（→DNP高機能マテリアル彦根）
 25年～26年以降、新規電池工場が随時本格稼働し、欧米向けで大きく増加を見込む



24年度

IT系：薄型高容量対応で数量増
 車載：前半は電池メーカーでのBP在庫過多により需要低迷
 後半から**在庫正常化し需要戻る**

25年度

IT系：レゾナック・パッケージを傘下に入れ製品領域の拡大
 車載：市場が回復傾向
電池メーカーの新規工場稼働開始

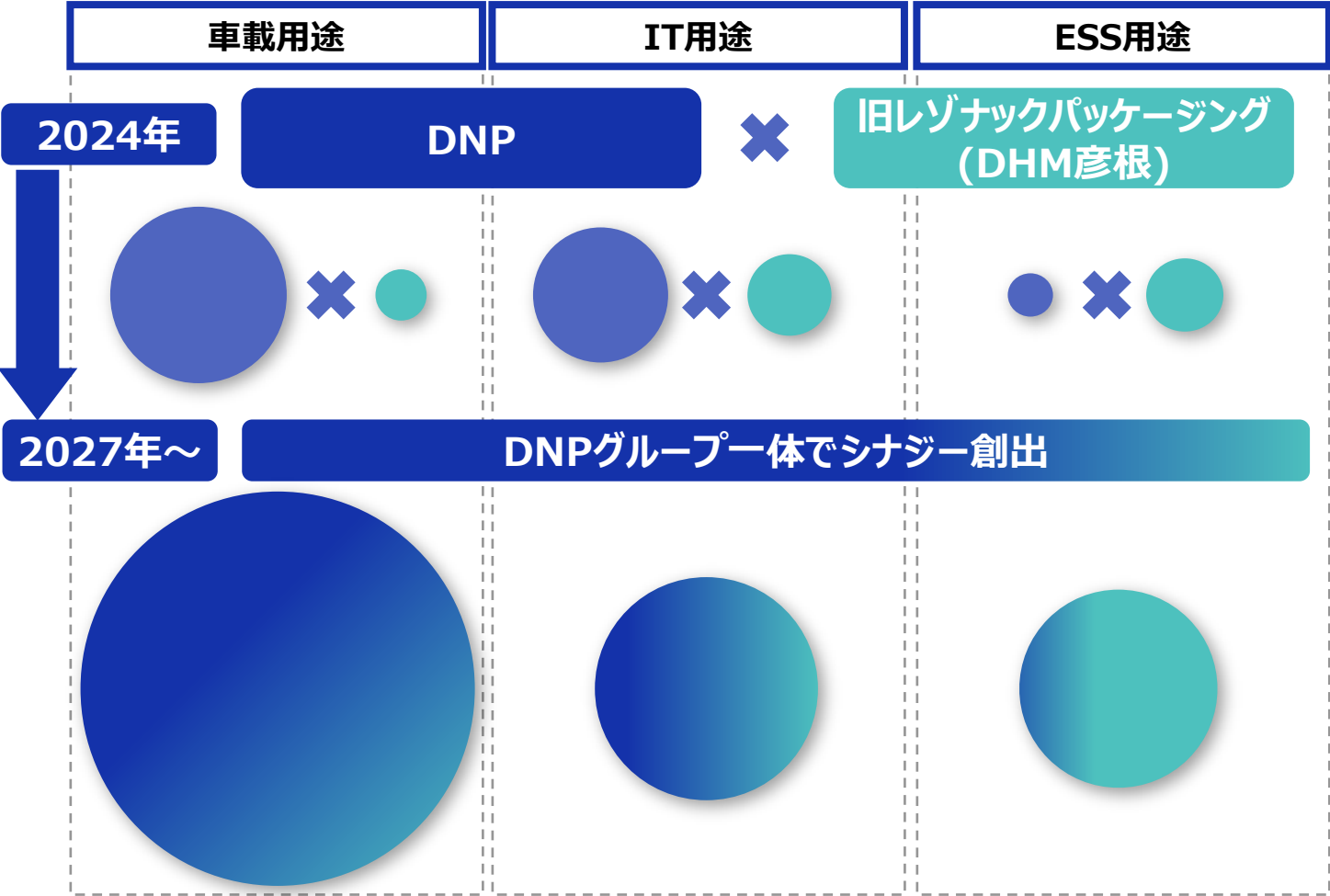
26年度～

IT系：堅調に推移
 車載：**新規工場の本格稼働**
 米国中心に伸長見込む

製品領域の拡大およびシナジー

DNP

補完的商圏による製品領域の拡大：車載、IT、ESSの全領域で増大
両社合わせた強い特許と技術の融合：強固な参入障壁、競合他社絶対優位、他方式（角缶等）対抗



DNP

車載、IT系（ハイエンド品）トップシェア

旧レゾナックパッケージング(DHM彦根)

ESSに強い
IT系（電子タバコ、ミドルエンド品）

- 両社合わせて**800件以上の特許**
→他社参入抑制
- 両社の製造ノウハウ・技術・開発を融合
→他社優位性確保

車載：高いシェアを堅持
IT系：スマホなどのIT機器以外の
製品領域の拡大
ESS：技術を融合し、強みの構築
市場拡大とともに数量増やす

(1)中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2)持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3)事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

半導体製造用フォトマスク

DNP

未来のあたりまえをつくる。

事業概要：半導体関連事業 フォトマスク（半導体前工程）

DNP

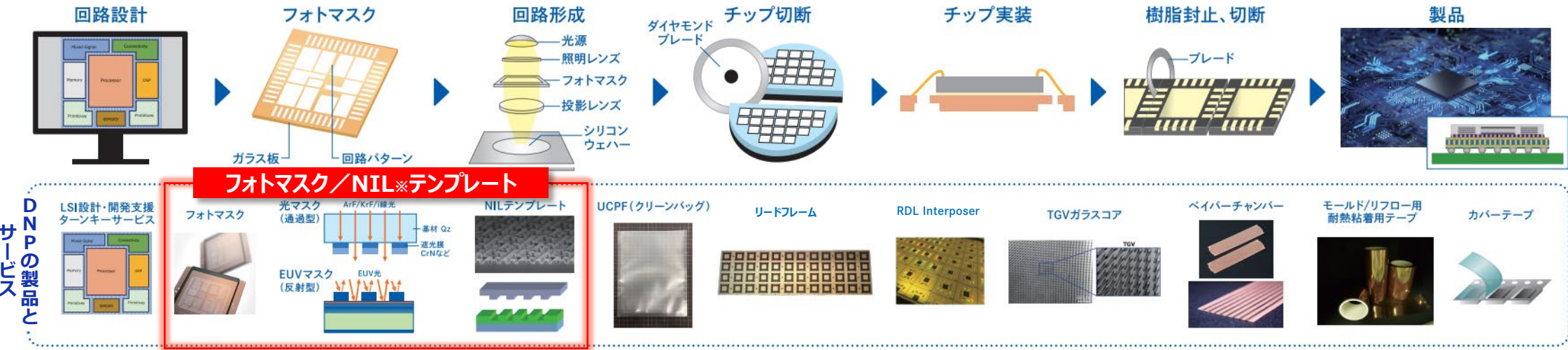
半導体フォトマスク：DNPの注力事業領域である半導体関連事業における基幹製品

DNP 半導体関連製品とサービス

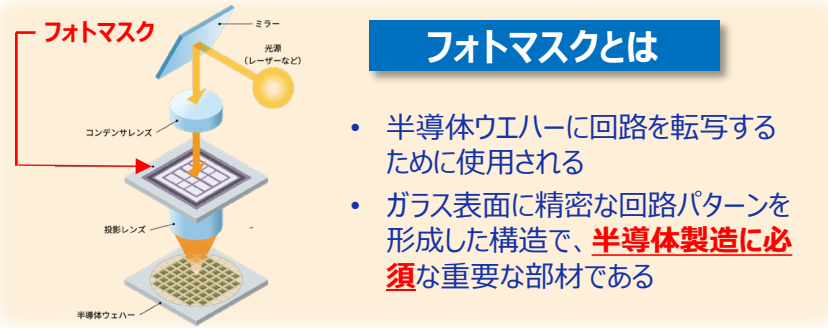
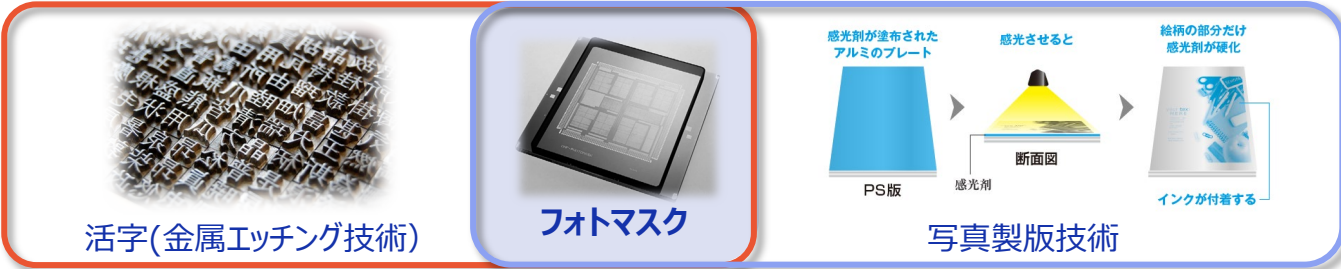
※NIL：Nanoimprint Lithography

前工程

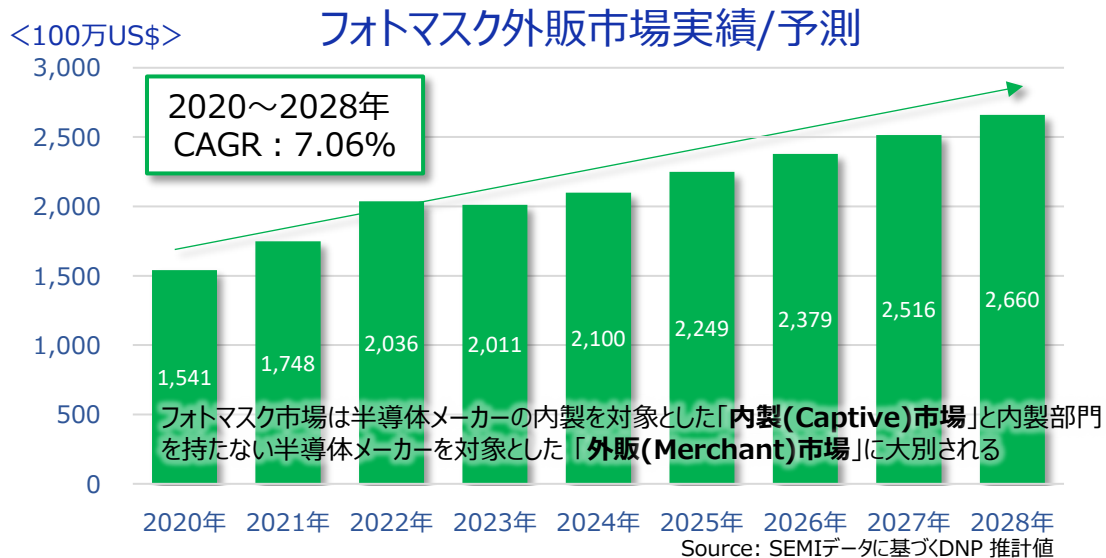
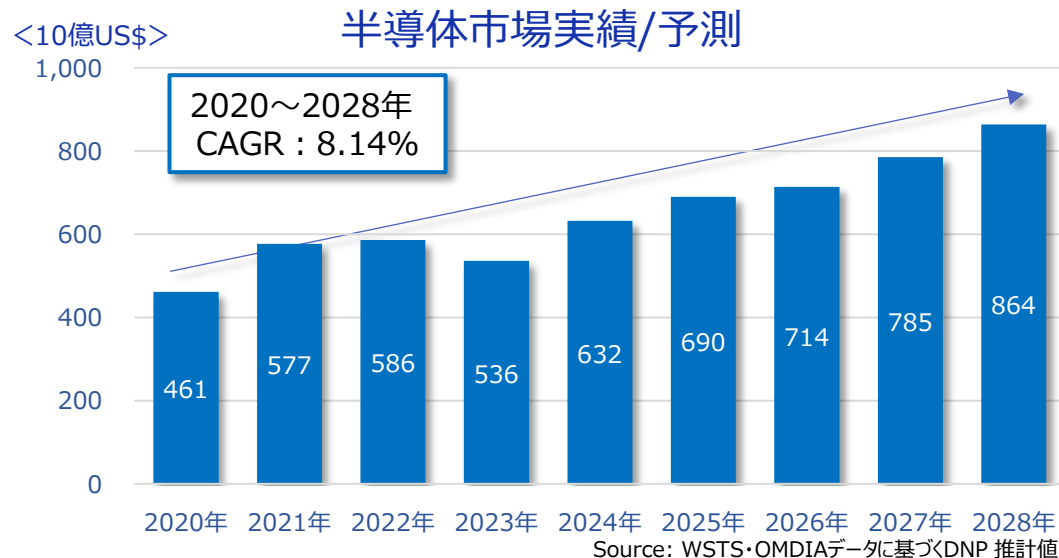
後工程



DNP基盤技術とフォトマスク “何故、印刷会社がフォトマスク”なのか



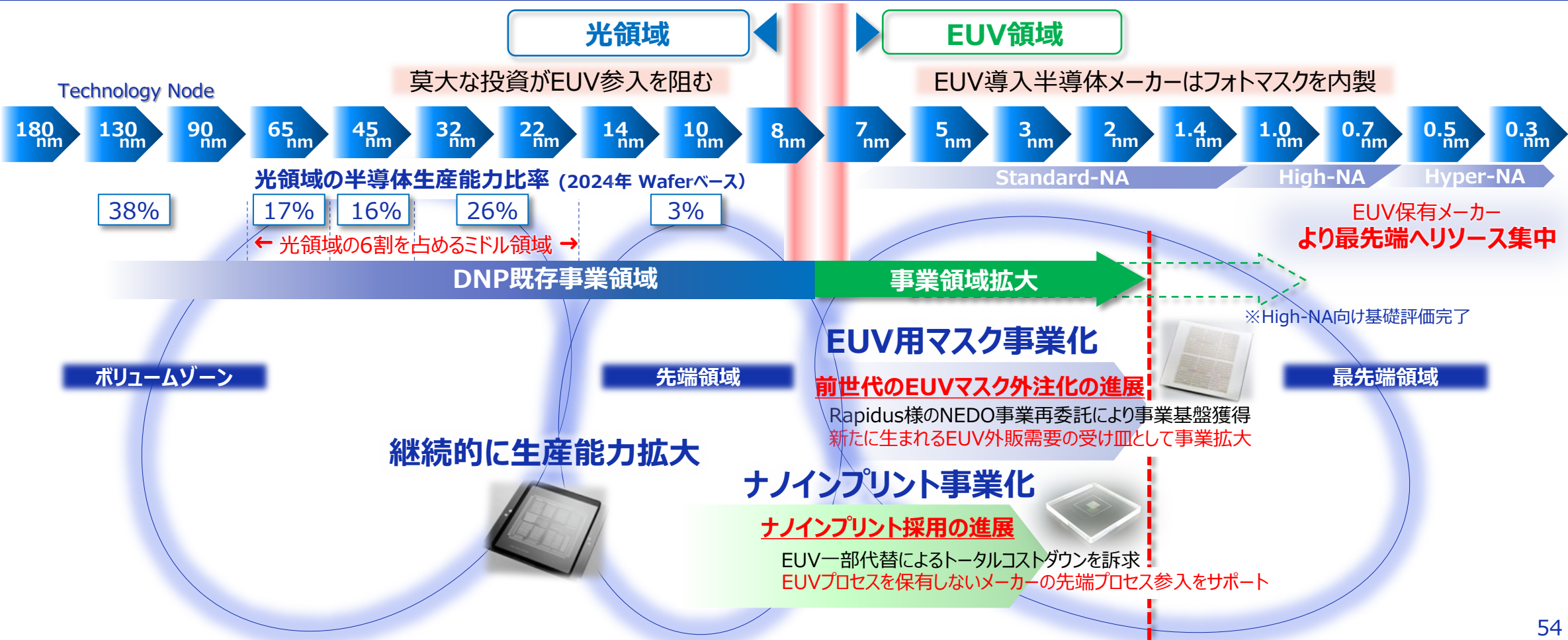
半導体市場の成長と共に外販フォトマスク市場も確実な成長が期待される



- 半導体市場はAI関連、車載用途での成長が市場拡大を牽引し、2020年～2028年CAGRは8.14%が予測されている
- DNPの事業領域であるフォトマスク外販市場も半導体市場拡大に連動し、堅調な拡大が予測されている
- 足元ではAI関連が好調の一方、民生、産業機器関連は低迷状態にあり、市場全体としては直近の四半期比では減少している
更に米国の関税政策のサプライチェーン全体への影響も想定され、不透明感が増している
- 半導体市況は不透明感が増しているが、足元のフォトマスク外販市場は開発品を中心に堅調を維持している
- 半導体市場は保護貿易主義や地政学的な摩擦の影響を受けつつも、AI、EV関連の牽引により中長期的には継続成長が予測されている

➤ **DNPは現状では内製フォトマスクが占めている最先端領域へ事業拡大を図る**

外販フォトマスクメーカーにとって新たな市場として期待される最先端領域及び、継続成長する先端領域、ボリュームゾーンへの対応を強化し、半導体市場を隈なくカバーして持続的事業拡大を図る



DNPの強み／事業の成長ストーリー

DNP

DNPは強固なパートナーシップと継続的な技術開発を競争力の源泉と考え、今後更に強化して半導体市場において事業領域の拡大を図ります

DNPのフォトマスク事業では、強固な**パートナーシップに基づく信頼関係と継続的な技術開発が競争力の源泉**と考えている

※パートナー：半導体メーカー、装置メーカー、材料メーカー、研究機関、他

パートナーシップを重視した、強固な信頼関係は

- ・ **技術革新や市場トレンドに迅速に対応できる柔軟性**をもたらす
- ・ 共同開発を通じて**新たな価値創出**を可能とする

パートナーシップ成果事例

- ・ ナノインプリント開発 : **KIOXIA様、Canon様**
- ・ EUVマスク開発 : **imec様、Rapidus様** ※EUVマスク、ナノインプリントはともに10年以上の開発継続の産物
- ・ 急成長する中国市場へのタイムリーな対応 : **PDMC/X**
- ・ 半導体技術とフォトマスク技術の融合 : **ST Microelectronics様、国内半導体各社様**
- ・ その他、材料、装置メーカー各社との共同開発

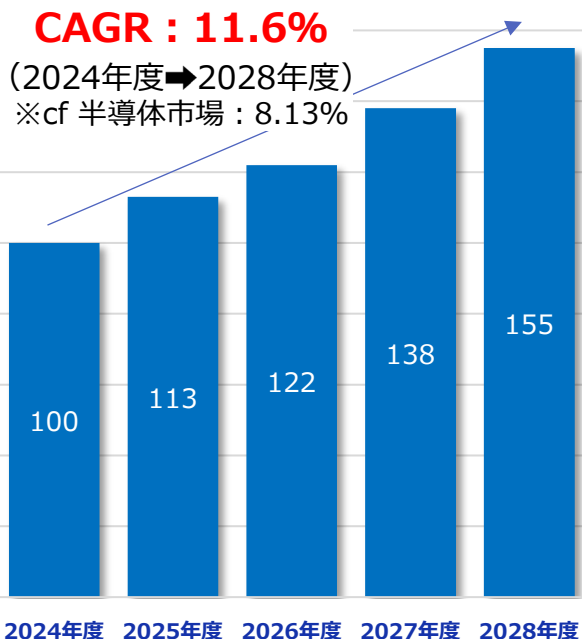


半導体フォトマスク 売上計画

DNP

DNP半導体関連事業の基幹製品として積極的な投資を継続し、半導体市場を上回る成長を計画

2024年度を100とした売上計画



2025年度進捗状況 (対昨年IR-Day報告)

売上 2022年度比
計画通り**15%増**予定

投資 2023～2025年度
計画通り**200億円**実行予定
効果 計画通り**売上全体比10%**予定

最先端領域

EUV用フォトマスク

- 2nm世代開発開始 → **解像成功**
- Rapidus様でのパイロットライン立上げに
合わせてEUV用マスクを**出荷開始**
- 主要メーカーからの**引合い増加**

ナノインプリント

各社からの引合い増加 → **評価ワーク開始**

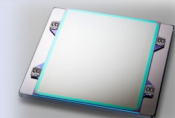
先端～ボリュームゾーン

生産能力 計画通り**120%**確保予定(2022年度比)

成長ドライバー

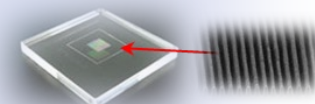
最先端領域 2028年度 +100億円(2024年度比)

EUV用マスク事業化
2027年本格量産開始



2nm世代EUV向けフォトマスク

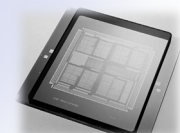
ナノインプリント事業化
2027年量産開始



NILテンプレート

先端～ボリュームゾーン

継続的な生産能力の拡大



光フォトマスク

2026年度～2028年度 設備投資計画 300億円

投資対象 ・最先端領域

・先端～ボリュームゾーン

： EUV用フォトマスク量産化、ナノインプリントの開発加速/事業化

： 継続拡大が予想される2つの領域へ対応する生産体制の強化

ガラスコア（先端パッケージ部材）

DNP

未来のあたりまえをつくる。

事業概要：半導体関連事業 先端実装部材 ガラスコア（半導体後工程）

DNP

DNPの注力事業領域である半導体関連事業における新たな先端パッケージ部材
既存実装部材リードフレームから先端実装領域への拡大、次世代での成長を牽引する新規事業

DNP 半導体関連製品とサービス

前工程

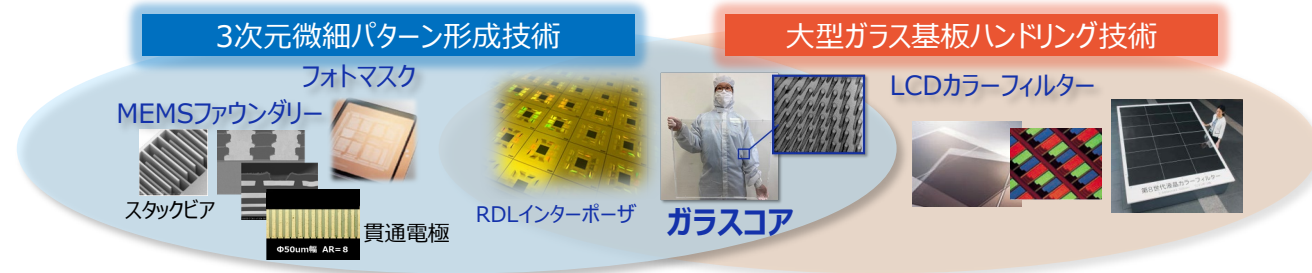
後工程



DNPの製品とサービス



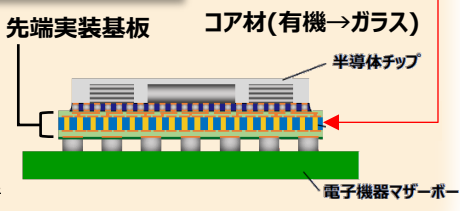
DNP基盤技術と半導体先端パッケージ部材



ガラスコアとは

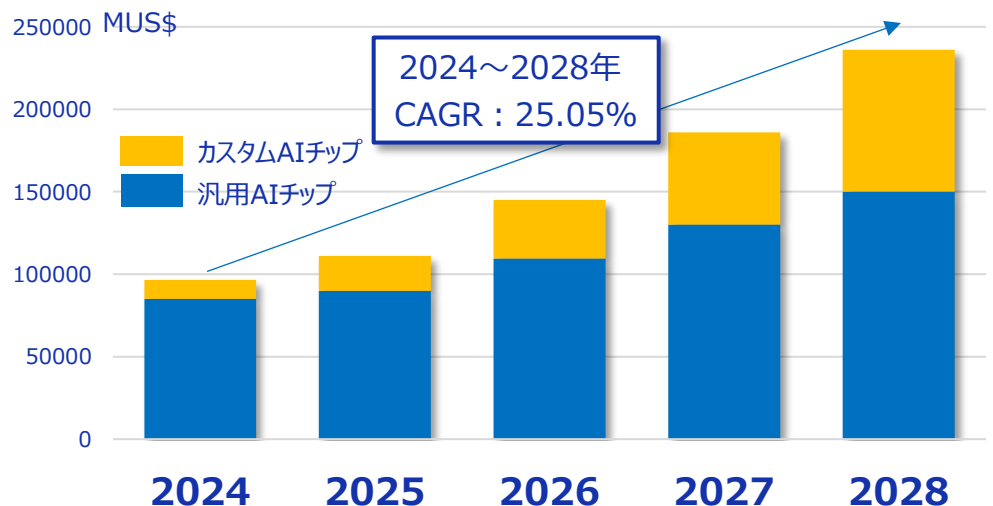
ガラスコア

高性能デバイス向けパッケージに採用されている先端実装基板では有機材を用いたコア基板が採用されている。今後の実装基板の微細配線化、大型化に伴う課題(平坦性や反り)の解決の為、有機材からガラス材へ変更したコア基板が注目されている。



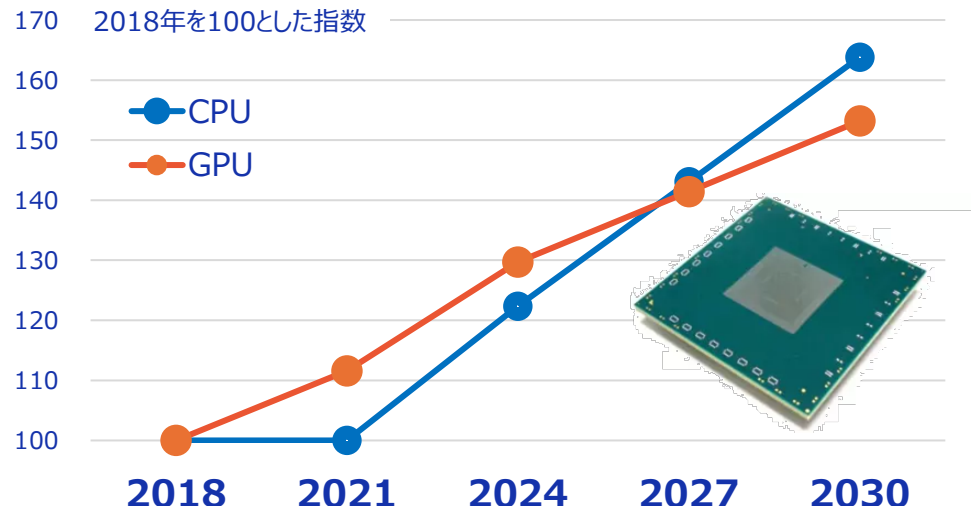
AIとチップレットの進展、パッケージサイズの大型化に伴いガラスコア市場が新たに創出される
半導体メーカー各社においてガラスコア採用に向けた動きが活発化している

クラウド向けAIチップ市場予測



Source: 各種資料をもとにDNP推計

サーバー向け平均パッケージサイズの推移予測

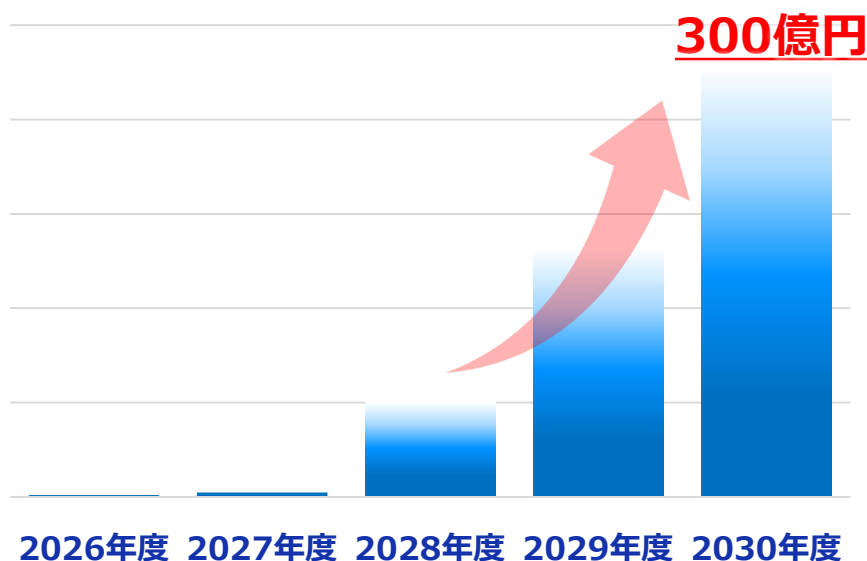


Source: 各種資料をもとにDNP推計

- AIの進展、チップレットの拡大を背景に先端デバイス向けのパッケージ基板は大型化が進む
- 基板の大型化に伴い、既存有機コアの反り/平坦性/剛性が課題として顕在化し、ソリューションとしてのガラスコアの需要が創出される
- 足元では、2024年後半からガラスコア採用に向けた検証を開始した企業が増加、パッケージ信頼性評価の動きが加速している
- 2025年末～2026年前半にかけて各社にてガラスコア採用可否が判断されると予測する

➤ **DNPはガラスコア採用に向けて加速する半導体メーカーの動きに合わせて、適時に設備投資を判断**

次世代での成長を牽引する新事業として大きな成長を計画、半導体関連事業に新たなポートフォリオを加える
ガラスコア採用に向けて加速する半導体メーカーの動向に合わせて設備投資を順次実施
2028年量産開始を計画

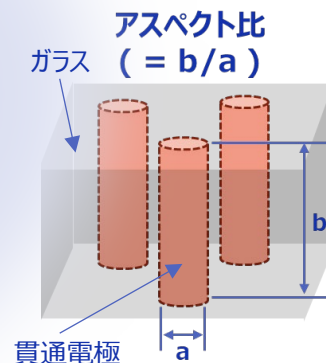


半導体メーカー動向

- 量産適用に向けた評価を各半導体メーカーが実施中
採用判断は2025年末～2026年前半となる見込み
- 各メーカーは**2028年～順次量産開始**見込み

DNP事業方針

- 顧客要求であり、DNPの技術優位性が発揮される
高付加価値領域 = 高アスペクト、高品質をターゲットに量産に向けて段階的に準備を進める
- 提携メーカーとの**協働を軸とした開発/事業化**



2024年度～ 半導体メーカー／基板メーカーの動きに合わせ順次設備投資を計画
投資対象
・パイロットライン：2025年末完成予定（埼玉県久喜市）
・本格量産ライン：2028年量産化を想定した大規模投資を計画



(1) 中期経営計画の進捗と評価、今後に向けて

代表取締役社長 北島 義斉

(2) 持続的成長へ向けた考え方

専務取締役 三宅 徹

(3) 事業戦略

情報セキュア関連

常務執行役員 沼野 芳樹

フォトイメージング関連

常務執行役員 村上 和郎

モビリティ関連

常務執行役員 宮崎 剛

産業用高機能材関連（バッテリーパウチ）

執行役員 松村 有純

半導体関連（半導体製造用フォトマスク、ガラスコア）

常務執行役員 中西 稔

デジタルインターフェース関連（光学フィルム、メタルマスク）

執行役員 富澤 伸行

光学フィルム

DNP

未来のあたりまえをつくる。

DNPディスプレイ事業の歩み

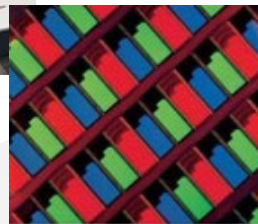
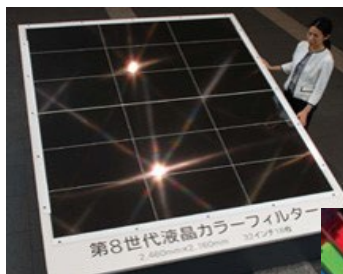
DNP

快適な暮らしの実現に向け、研究・開発から量産までディスプレイ技術の発展に貢献
“未来のディスプレイ”への新たな価値を提供

- ブラウン管
シャドーマスク



- 液晶ディスプレイ
カラーフィルター



- 有機EL(OLED) メタルマスク



“未来のディスプレイ”

- 有機EL用 位相差フィルム



- ディスプレイ用
低反射・防眩フィルム

- プラズマ・ディスプレイパネル用背面板、表面フィルム、電磁波シールド、近赤外線フィルタ
- プロジェクションスクリーン

事業概要 『ディスプレイ用光学フィルム』

DNP

独自の光学設計技術とコンバーティング技術を駆使し、多様な機能をもつ光学フィルムを提供

主な製品

- 反射防止(AR)フィルム、防眩(AG)フィルム
- 位相差フィルム



トレンド

- テレビなどディスプレイの大型化
- 利用範囲の拡大、更なる高機能化
 - ・低反射
 - ・耐擦傷
 - ・防眩かつ高精細
 - ・折りたたみ性

DNPのソリューション

光を制御する光学設計技術と
材料・コーティング技術



ディスプレイ用光学フィルム※
で世界トップシェア

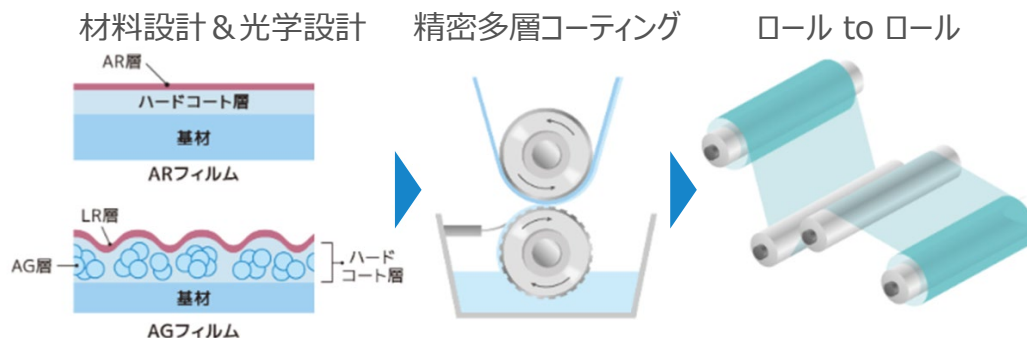
社会へのインパクト

- より鮮やかな色彩のディスプレイを実現
- デバイスの利用範囲を拡大し、ユーザビリティを向上

→ 快適な暮らしの実現

※ディスプレイ表面用の反射防止フィルムおよび防眩フィルムにおいて

DNPのコアテクノロジー



印刷のインキ材料を基材表面に薄く均一に付着させて覆うコーティング技術から派生した**精密塗工技術**。

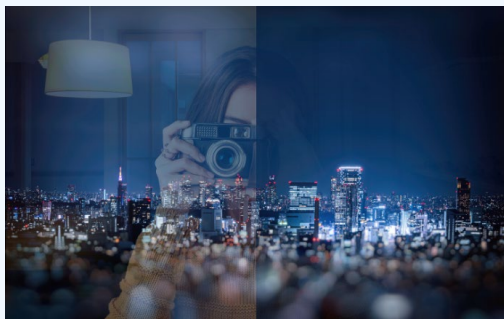
光学設計技術や材料開発技術を深化することで、**多様な機能を持つ光学フィルム**を生み出しました。

主力製品の機能と用途

DNP

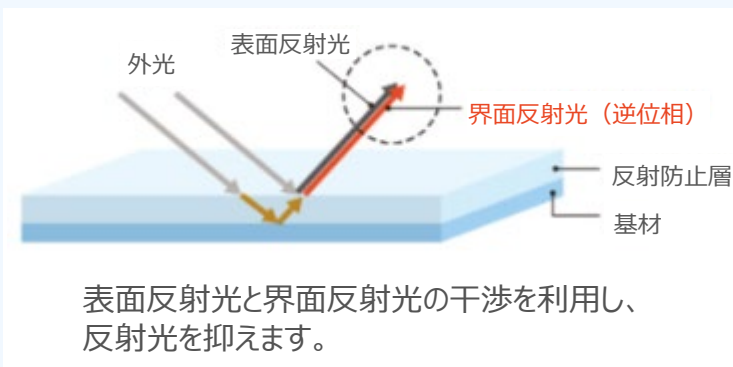
- テレビやモニター、ノートPC、タブレット、スマートフォンに使用される光学フィルム
- 使用環境に合わせた光学設計、様々な機能付与による豊富なラインナップ

反射防止 (AR : Anti-Reflection) フィルム



ARフィルム無し

ARフィルム有り

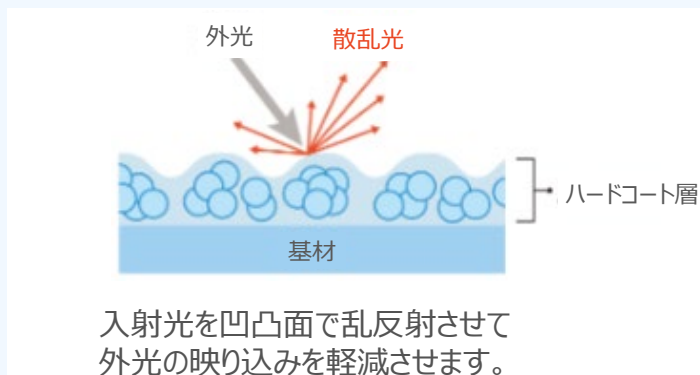


防眩 (AG : Anti-Glare Film) フィルム

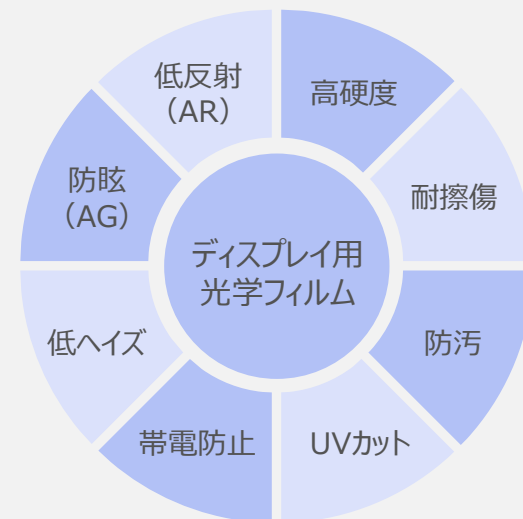


従来AG

高防眩AGLR



様々な機能付与



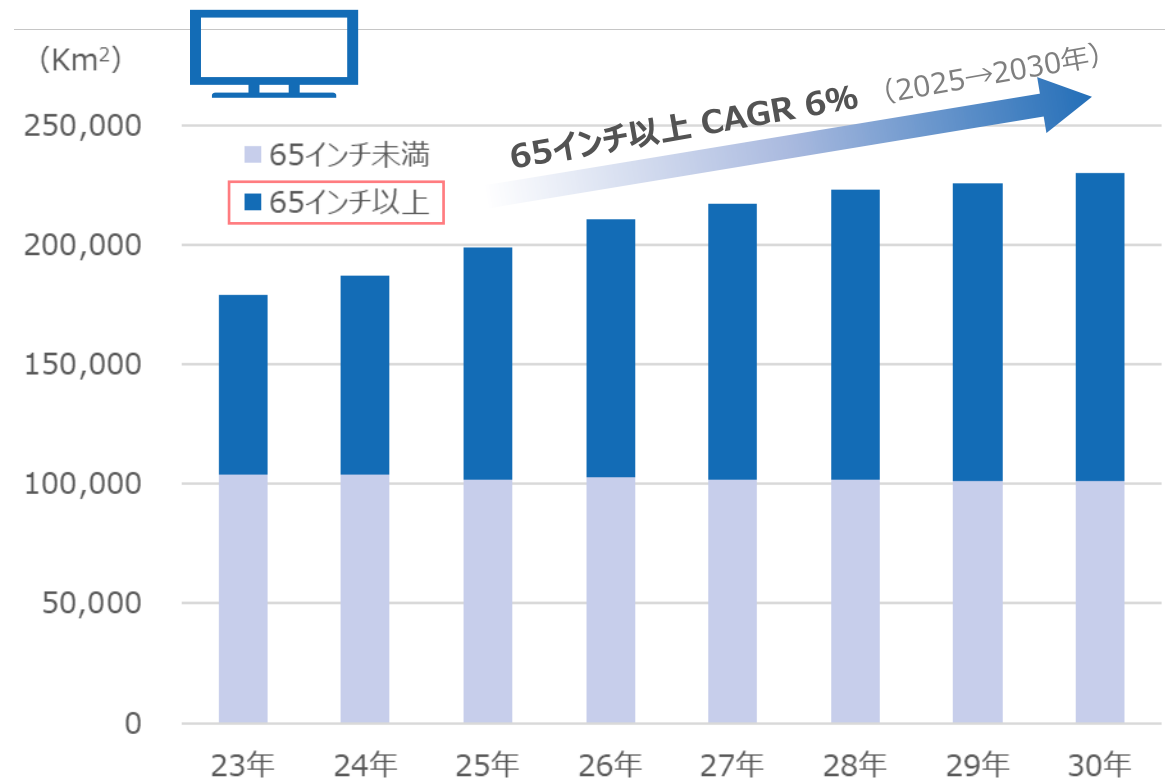
例)





ハードコート (耐擦傷)

- テレビ等のディスプレイの大型化、大型テレビ向け光学機能性フィルムの需要拡大
- 光学フィルムの生産能力向上、安定的な供給への期待

ーテレビ用パネル出荷面積予測ー



出典：Omdia Display Long-Term Demand Forecast Tracker 1Q25 Pivot with 4Q24 Result

事業環境	<ul style="list-style-type: none">● テレビの大型化 25→30年 テレビ面積全体 CAGR 3% 65インチ以上 CAGR 6%
機会	<ul style="list-style-type: none">● 大型テレビ向け光学機能性フィルムの需要拡大
DNPの強み	<ul style="list-style-type: none">● 大面積・高機能化技術、光の反射を制御する光学設計技術と材料・コーティング技術● 多様なフィルム基材に対応し、豊富な生産ラインナップ● 高機能かつ高品質な製品を実現するインライン多層コーティング製造設備● 高い生産性を追求しながら高品質な製品を安定して供給する能力 <p>重点施策</p> <p>2,500mm幅対応の超広幅ラインの稼働による生産能力の向上、安定的な供給を実現（2025年9月稼働予定）</p> <div></div> <p>広幅コーティング装置を新たに増設した三原工場 コーティング装置一部</p>

高機能かつ高品質な製品を実現するインライン多層コーティングの生産能力拡大による一層のシェア拡大

- テレビのサイズ別 出荷台数/推移 イメージ図 -

サイズ別
増減傾向

ボリュームゾーン

豊富なラインナップ、
高品質・高生産能力による
プレゼンス拡大

32インチ以下

32~

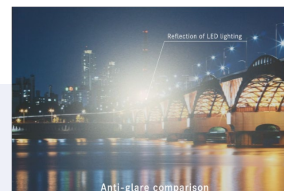
40~

50~

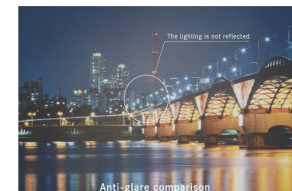
大型ゾーン

- DNP保有特許を活かし、大型ディスプレイ向けに低透湿性・虹むら解消の特殊PETを展開
- 2,500mm幅対応のコーティング装置による生産能力向上
- 多層コーティングによる高機能品（例：AGLR, HCLR）の展開、ハイエンドモデルへのニーズに対応

テレビの大型化
65インチ以上の大型テレビ需要の加速



従来AG



高防眩AGLR

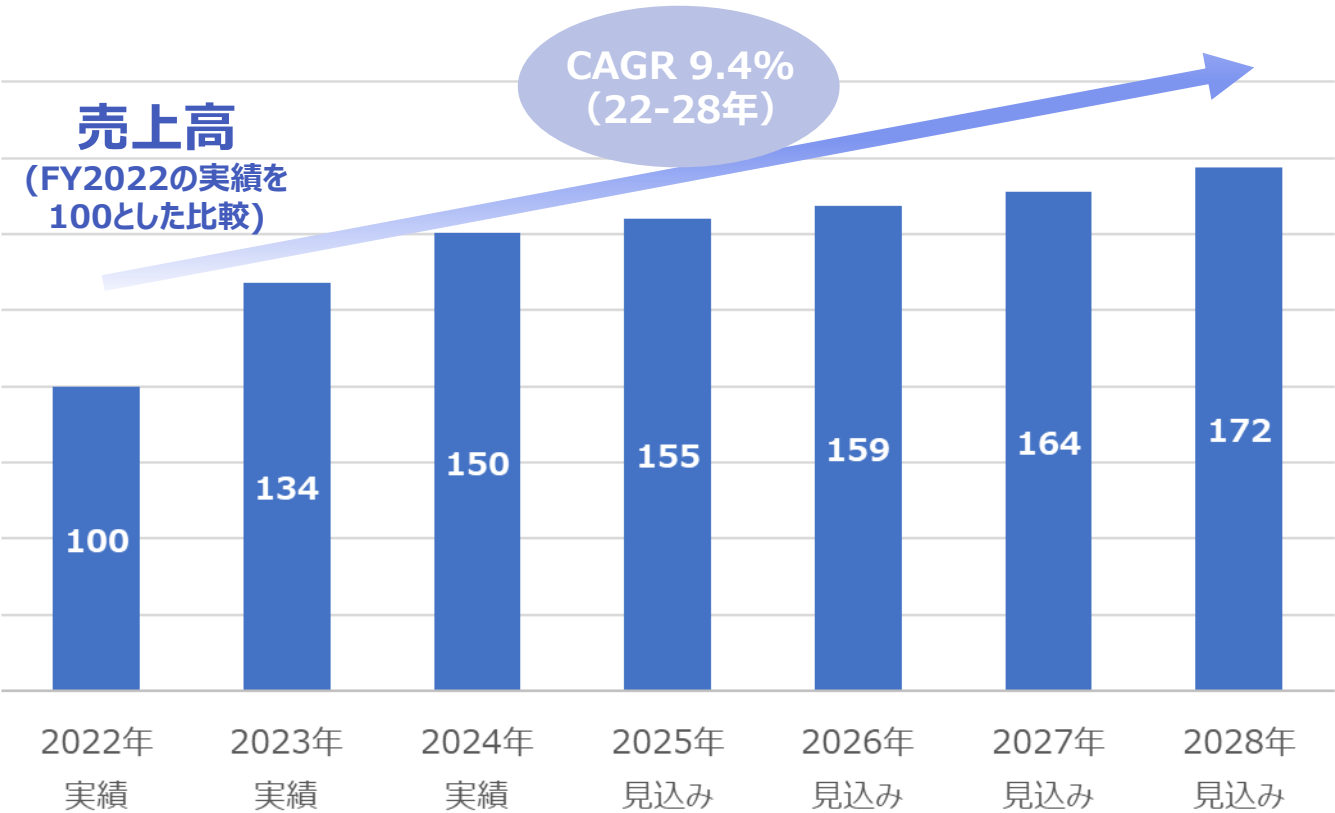
外光の映り込みを大幅に抑えることでディスプレイの画質が向上

60~

70~

80~

90~



概要

2024年実績

光学フィルムの出荷面積の拡大などで大幅に伸長

- 背景 -

- ・テレビ用パネルの大型化
- ・サプライチェーンの変化
- ・中国での消費財買い替え補助金によるテレビ販売の押し上げ
- ・米国の関税政策による駆け込み出荷

2025年見込み

2024年に引き続き需要が継続する見通し

今後の展望

広幅、多層の高付加価値品の増加を見込む

メタルマスク

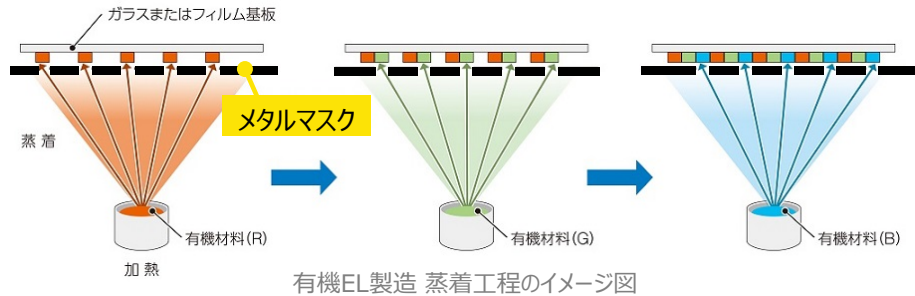
DNP

未来のあたりまえをつくる。

事業概要 有機ELディスプレイ製造用メタルマスク

DNP

有機ELディスプレイの薄型軽量化・高精細化・大型化を実現するメタルマスクを提供
DNPは2001年からメタルマスクの開発を開始。黎明期から普及に向けて、有機ELディスプレイの発展に貢献



有機ELディスプレイの「蒸着」工程で用いられる、微細な孔を精密・正確に開けた薄い金属板。ディスプレイのRGB各色発光材料をディスプレイ用の基板上（ガラスまたはフィルム）に精密・正確に塗分けるために配置されます。



メタルマスクを用いて製造した有機ELディスプレイのイメージ

トレンド

- スマートフォン向けの需要拡大
- 中小型デバイスでの採用拡大
- スマートウォッチ
- ノートPC
- タブレット
- 車載

DNPのソリューション

独自のフォトリソグラフィとエッチング加工技術で高精細なメタルマスクを製造

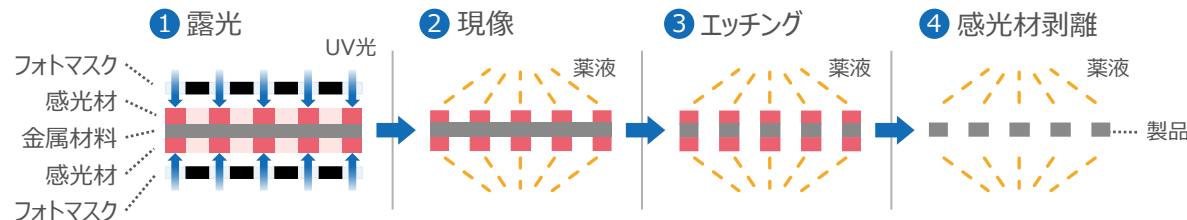
スマートフォン向けを中心に世界トップシェアを獲得

社会へのインパクト

- ディスプレイの薄型軽量化、高精細化を実現
- フレキシブルな形状を活かし、新しい用途の可能性を拡大

→ 快適な暮らしの実現

DNPのコアテクノロジー

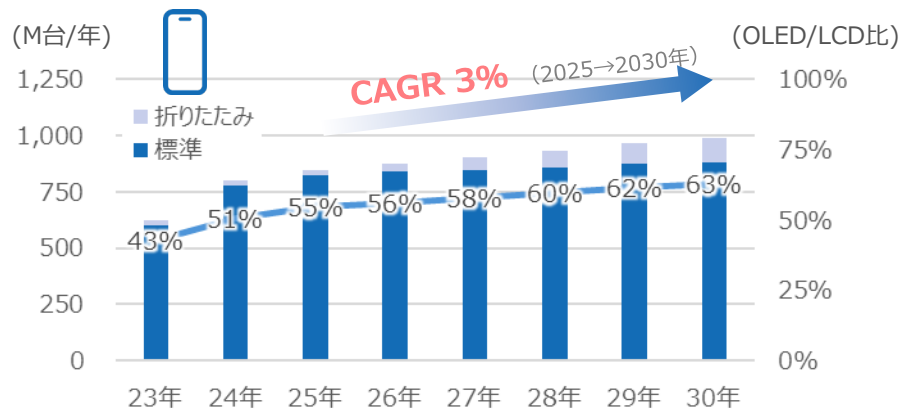


一般的なフォトリソグラフィとエッチング加工技術の概念図

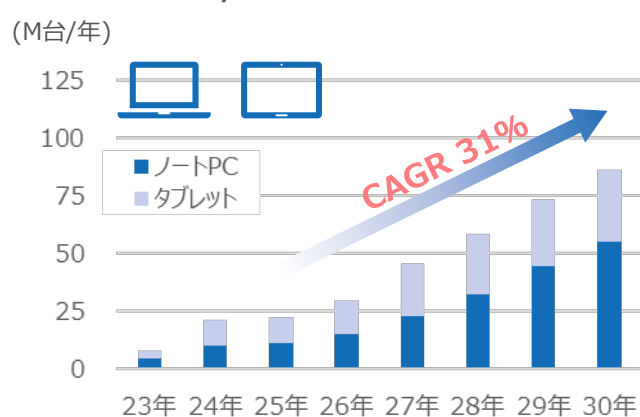
印刷用のはんこをつくる技術が生んだメタルマスクより美しく鮮明に印刷するために「版」をつくる技術を磨き、高精度な「微細加工」技術へと高めてきました。

- スマートフォンでの有機ELディスプレイの伸長
- タブレット端末やノートPC、車載デバイスでの有機ELディスプレイの採用拡大

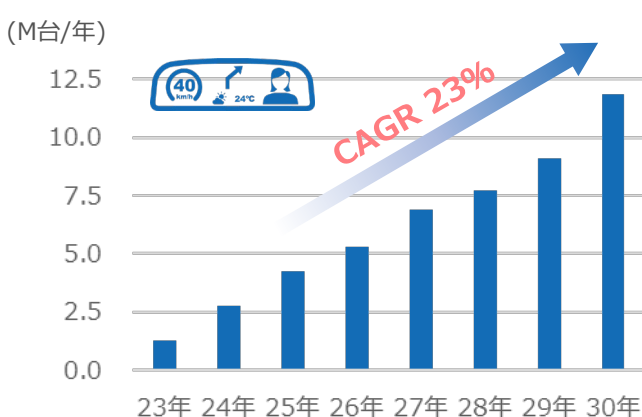
－有機EL スマートフォン パネル出荷台数予測－



－有機EL タブレット/ノートPC パネル出荷台数予測－



－有機EL 車載ディスプレイ パネル出荷台数予測－



事業環境	<ul style="list-style-type: none">● 成熟期を迎えたスマートフォン市場の一方で<ul style="list-style-type: none">- スマホ向けディスプレイでの有機EL採用比率の伸長- 折りたたみ端末：新たなフォームファクタの登場● タブレット、ノートPC、車載ディスプレイへの用途展開の加速、有機ELディスプレイの大型化
機会	<ul style="list-style-type: none">● 有機ELディスプレイの更なる高精細化● 第8世代向けファインメタルマスクの需要拡大
DNPの強み	<ul style="list-style-type: none">● 高い精度を誇るフォトリソグラフィ技術とエッチング加工技術● 優れた技術開発力● 高品質・高精細な製品を安定して供給する能力● 材料や製造方法、製品に関する特許やノウハウを幅広く保有 <p>重点施策 IT向けを中心としたG8生産ラインの強化 メタルマスク第8世代 生産ライン（黒崎）は2024年5月稼働開始以降、顧客製品向けに生産を継続中。 ・顧客のニーズ、計画に沿ったタイムリーな製品提供 ・更なる品質、生産能力向上</p>

- 多様な情報端末への有機ELディスプレイ拡大のニーズを先取り
- 高品質かつ安定的なメタルマスク提供によるディスプレイ進化への貢献

新たなフォームファクター



折り畳み式スマートフォン



車載ディスプレイ

- 多様な情報端末への
有機ELディスプレイ拡大のニーズを先取り



スマートフォン



タブレット

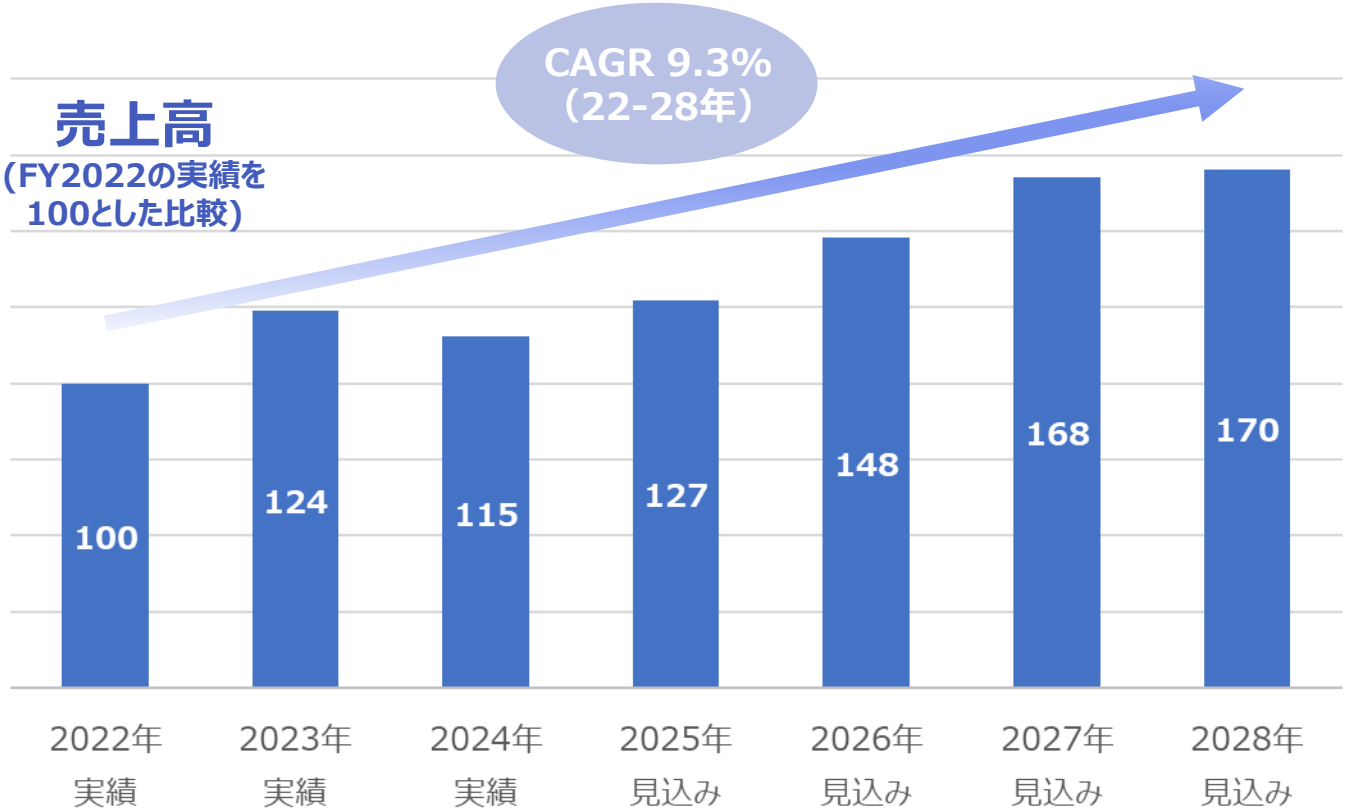


ノートPC

- 量産実績と高信頼性
- 安定的な供給能力
- 技術深耕による、
更なる高精細化の推進

- 黒崎G8ラインをIT向けOLED用メタルマスクの戦略的供給拠点として確立
積み重ねてきた信頼を強みに業界内での存在感、競争優位性を強化
- 高品質メタルマスク提供による顧客開発への貢献

有機ELディスプレイの大型化



概要

2024年実績

2023年度の有機ELディスプレイ新機種採用に向けた開発特需の反動による減少

2025年見込み

スマートフォン等へのOLEDパネル採用比率拡大のトレンドは継続

今後の展望

タブレット、ノートPCなどIT向けの需要増加を見込む

未来のあたりまえをつくる。

DNP

免責事項

本資料における業績予想及び中期的な経営目標等、将来予想に関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の業績は、様々な要因の変化により、これらの将来予想とは異なることがあることをご承知おきください。